

平成24年9月15日発行 ライセンスメイト 第1巻232号通算558号(年4回 3月15日、6月15日、9月15日、12月15日発行) 昭和36年11月6日第三種郵便物認可

# LICENSE MATE

## ライセンスメイト

成就するまで継続する

インターネット生放送番組 スタジオ日本 日曜討論

<http://touron.l-mate.net>

(毎週日曜日10:00~12:30)

発行所 株式会社 日本教育開発

軒先を貸して母屋を盗られる

中国人観光客のバスターミナル化した福岡市役所正面玄関。市民の抗議と批判をよそに高島市長は中国の公務員4,000名の研修を受け入れ、「中国に都市環境浄化システム等の技術をすべて公開する」と北京まで出向き、独断で覚書を結んだ。



好評配信中!  
(毎週日曜日10:00~12:30)

「インターネット生放送番組」

# スタジオ日本「日曜討論」

<http://touron.l-mate.net>

(エル)

ブラウザのアドレスバーに上記URLを入力して番組ホームページにアクセスして下さい。



ソーシャルストリーム (facebook, twitter) を使って番組にコメントをリアルタイムでお寄せいただけます。



携帯電話(スマートフォン)でも番組を視聴できます!



第1回放送(FM時代)からの放送内容をアーカイブでご視聴いただけます。

## スタジオ日本 日曜討論番組を支える会

平成15年10月の放送開始以来、この番組に出演されたリスナーの皆様を中心に設立されたのが「スタジオ日本 日曜討論番組を支える会」です。当会では、この番組に協力していただける新会員を広く募集しております。入会ご希望の方は当会事務局までお気軽にご連絡ください。詳しい案内資料をお送りいたします。

季刊誌ライセンスメイトによる特集  
番組の発展と支援の輪を拡げてきた毎年毎年の集大成作業



『スタジオ日本 日曜討論番組を支える会』の皆様  
毎月送られる「かわら版」と出演者に送られるCD

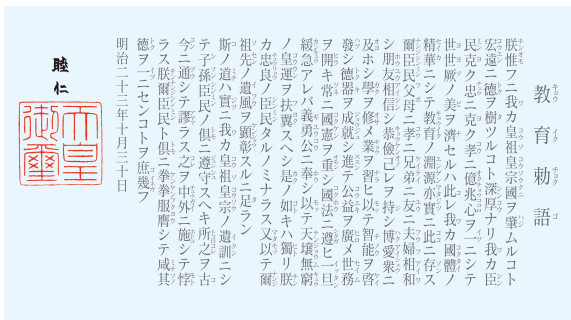


〒810-0001福岡市中央区天神1-3-38 天神121ビル13階  
TEL 092-721-0101 FAX 092-725-3190 (年中無休)

# LICENSE MATE

## 特集 日曜討論

- 1 スタジオ日本
- 日曜討論番組を支える会
- 2 「支える会」のあゆみ
- 3 祝辞
- 4 ごあいさつ
- 7 定期総会・記念講演会・懇親会
- 9 シリーズ紹介
- 33 支える会
- 35 スタッフの声
- 37 ご支援ありがとうございます
- 38 番組に出演して
- 46 意見広告



番組開始9周年

## 「支える会」のあゆみ

平成12年	3月 3日	FM-MiMi開局…1
平成15年	8月30日	日本会議福岡主催の時局講演会開催(会場/女性センターアミカス) 講師/伊藤哲夫氏(日本政策研究センター所長)、演題/「男女共同参画社会を考える」…2
	10月 1日	「日曜討論」事務局を日本教育開発内に開設…3
	10月 5日	「FM-MiMi日曜討論」放送開始 コメントーター確定(小管1人体制) 収録CD(テープ)贈呈開始…4
	10月25日	「FM日曜討論会大反響」西日本新聞朝刊に掲載…5
	11月 9日	第1回慰労会(梅の花 9名)…6
	12月15日	ライセンスメイト連載開始…7
	12月21日	第2回慰労会(梅の花 9名)…8
平成16年	4月 4日	第3回慰労会(ウォーターリー 13名)…9
	5月15日	ライセンスメイト『日曜討論特集』発行…10
	8月 8日	第4回慰労会(花万葉 24名)…11 ※FM-MiMi日曜討論番組を支える会」発起人会兼ねる(以下「支える会」と表記)
	9月26日	第5回慰労会(花万葉 14名)…12

平成17年	3月 5日	第6回慰労会(花万葉 15名)…13
	4月 1日	日本会議福岡の番組後援決定…14
	4月 3日	コメントーター増員(香月、伊藤が加わり3人体制へ)…15
	8月15日	ライセンスメイト『日曜討論特集』発行…16
	8月21日	「支える会」設立の集い・懇親会(平和樓 32名)…17
	10月 2日	スポンサートーク開始…18
平成18年	3月 3日	放送局の名称変更(「FM-MiMi」から「StyleFM」)を機に番組名称を従来の「FM-MiMi日曜討論」から「StyleFM日曜討論」に変更…19 ※これに伴い、「FM-MiMi日曜討論番組を支える会」の名称も「StyleFM日曜討論番組を支える会」に変更
	6月20日	「日曜討論かわら版」第1号発行(毎月20日発行)…20
	8月15日	ライセンスメイト『日曜討論特集』発行…21
	8月20日	「支える会」懇親会(テルホール32名)役員改選、会計年度変更(→総会化)…22
	10月 1日	コーヒープレイク開始…23
平成19年	6月15日	ライセンスメイト『日曜討論特集』発行…24
	8月19日	第1回「支える会」定期総会・講演会・懇親会(スカイホール38名)…25
	12月 1日	江崎道朗先生(日本会議経済人同志会)「誇りある国づくり運動におけるメディア戦略の位置づけ」 「日本の息吹」にStyleFM日曜討論座談会記事掲載…26
平成20年	3月 3日	「StyleFM日曜討論」ホームページ開設…27
	7月 1日	「支える会」ホームページ開設…28
	8月17日	第2回「支える会」定期総会・講演会・懇親会(スカイホール44名)…29
	9月15日	江崎道朗先生(日本会議経済人同志会)「国益を守り真実を語り誠心を尽くすことに休日なし」
	10月15日	ライセンスメイト『日曜討論特集』発行…30
	10月16日	「StyleFM日曜討論」定番広告を新聞他に出稿開始…31
平成21年	6月15日	ライセンスメイト『日曜討論特集』発行…32
	8月23日	第3回「支える会」定期総会・講演会・懇親会(スカイホール47名)…33
	12月11日	江崎道朗先生(日本会議経済人同志会)「偏向報道の連鎖を断ち切ろう!—NHKスペシャル「JAPANデビュー」の偏向報道の裏にあるもの」 第1回「支える会」新会員歓迎会・忘年会(花万葉24名)…34
平成22年	3月 6日	StyleFM開局10周年記念パーティ(JALリゾートシーホークホテル福岡「支える会」から3名参加)…35
	5月13日	産経新聞で「日本に移民は必要か」意見広告掲載…36
	6月15日	ライセンスメイト『日曜討論特集』発行…37
	8月22日	第4回「支える会」定期総会・講演会・懇親会(テルホール103名)…38
	10月 1日	清水馨八郎先生(千葉大学名誉教授)「日本文化・文明の本質—参院選と民主党の正体・W杯の総括などを通して」
	10月22日	「日曜討論」スタジオを日本教育開発内に開設…39
	10月22日	産経新聞で「尖閣諸島は先祖から受け継いだ私たち日本の国の領土です」意見広告掲載…40
	11月 1日	放送局の名称変更(「StyleFM」から「NewVoice」)を機に番組名称を従来の「StyleFM日曜討論」から「スタジオ日本 日曜討論」に変更…41 ※これに伴い、「StyleFM日曜討論番組を支える会」の名称も「スタジオ日本 日曜討論番組を支える会」に変更
	11月 7日	従来のラジオ(コミュニティFM)による放送を改めインターネット(ユーストリーム)による放送開始…42
	12月10日	第2回「支える会」新会員歓迎会・忘年会(松幸40名)…43
平成23年	3月 2日	第1回スタジオ日本専任技術者研修会(てら岡7名)…44
	8月21日	第5回「支える会」定期総会・講演会・懇親会(テルホール82名)…45
	9月15日	江崎道朗先生(日本会議専任研究員)「マスコミの報じない歴史の真実/開戦70周年～東京裁判史観の見直しからアメリカで始まった」
	10月 1日	ライセンスメイト『日曜討論特集』発行…46
	10月 1日	インターネットユーストリームによる放送期間(現在～平成22年11月)の解説表示付アーカイブ公開※動画と音声と文字…47
	11月 4日	産経新聞で「九州電力に感謝し、心から応援します。」意見広告掲載…48
	11月 9日	第2回スタジオ日本専任技術者研修会(松幸10名)…49
	12月 9日	第3回「支える会」新会員歓迎会・忘年会(松幸35名)…50
平成24年	2月27日	産経新聞で「待望の『日曜討論全番組アーカイブス14月公開』意見広告掲載…51
	6月24日	第3回スタジオ日本専任技術者研修会(花万葉9名)…52



## 国益を守る言論活動に期待する

参議院議員

日本会議国会議員懇談会政策審議会長

衛藤 晟一

国益を守るため、放送を開始された「日曜討論」がこのたび、10周年を迎えられたとのこと、心よりお慶び申し上げます。当初はFM放送でしたが、途中からインターネット放送となり、全国で聴けるようになったことは大きな前進だと思います。私も平成23年8月21日に出演させていただき、民主党が進める「外国人参政権付与法案」「夫婦別姓法案」「人権擁護法案」の問題点について話をさせていただきました。人権擁護法案とは、人権擁護の名目で国民の言論の自由を抑圧する法律であり、私は一貫して反対をしてきました。もしこの法律が通れば、北朝鮮による拉致問題について触れただけで「在日朝鮮人への差別を煽った」といった理由で人権侵害行為として非難される、といった状況になる恐れがあります。

この人権擁護法案について、民主党政権はいまだに「推進」の立場です。そこで去る2月24日、自民党法務部会で法務省幹部を呼んで実情を聞いたところ、その法務省幹部は「法務省は三つ悲願がある」と述べ、「その三つとは何か」と追及したところ、「人権関係のもの、組織犯罪関係のもの、夫婦別姓のもの、以上の三つ」と答えました。つまり、現在の法務省幹部は「人権擁護法案」や「夫婦別姓法案」の制定を悲願と考えているのです。このような異常な状況を是正するためにも、早く民主党政権を打倒しなければと思っています。

政治を立て直すためには、国益を考え、行動する国民の皆さんの力が必要です。皆様とともに今後とも頑張りたいと思いますので、宜しく願います。



## 民主党政権三代目、野田内閣が正念場を迎えている

前衆議院議員

西川 京子

税と社会保障の一体改革を巡って三党合意の下、6月26日に衆議院採決(この原稿を25日に書いてます)という緊迫した状況にある。民主党内にはマニフェスト違反だとして反対する勢力が多数存在して、採決に造反する動きが広がっている。自民党衆議院議員として9年間勤めてきた私からすると、民主党の政権運営や政策決定が常に私達のやり方とは逆なのを感じる。細川政権誕生以来、小選挙区制導入と相まって「単独政権」という形はなくなった。衆議院選で圧勝しても、参議院がネックとなり、どこかの党と連立を組まなければ、政権安定は得られないという政治風土が出来上がってしまった。そういう風土の下で長く「連立政権」が続いている訳だが、だからこそ政策決定の過程は大変重要である。

私達が与党の時の政策決定の手順は、まず党内の各部会で一人ひとりの議員が自由に討論に参加をして、意見集約を計り、党の総務会で決定し、それから与党間の協議、合意をとりつける。その上で初めて与野党間の討論に入って、法案が成立するという仕組みになっていた。それが当たり前だと思っていたが、どうやら民主党にはそういう自由な討議を経て意見集約をしてゆく体制ができていなかったようだ。いわば成熟した意見集約システムを持たないまま、政権についてしまったということのようである。だから党幹部の何人かで大方の政策を話し合い、党の案として決定してしまう。必然、後から党内で異論が噴出して混乱を招くという事態が繰り返されてきた。ウソのマニフェストといい、2年10ヵ月の三内閣の政権運営といい、本当に政権を取るつもりがなかった人達が政権を取ってしまって、政権取得後慌てて勉強をしているというのが実体だろう。それにしても民主党が、「影の内閣」だの何だのと言いながら、これほど勉強をしていないとは思わなかった。そして国民やマスコミの期

待が大きかった分、失望も大きく、そのとばかりは自民党にも向けられ、国民やマスコミの論調は「民主党はひどいが、それにしても自民党も情けない」という決まり文句に集約される。野党馴れしていない自民党へのご批判ごもつもの所も多々あるにしても、民主党の酷さを見かねて、かなり法案成立には協力していても、そこは報道されない。

この際、テレビワイドショーの芸能人まがいのコメントイターの無責任な発言に踊らされて、民主党政権誕生に手を貸された民主党支持の皆様にも反省していただけたらと思う。なるべく情報は新聞、テレビ、インターネット等多くから収集されて、テレビ報道にしても新聞報道にしても、かなり恣意的に意図的に編集して流されということをしっかり頭に入れて接することをお勧めしたい。次の総選挙がそう遠くない将来に実施されることになるが、今度のテレビ報道のお目当ては橋本徹氏の「維新の会」になるだろう。石原新党と合流するやら何やらと、こと細かく連日報道されるが、それがまたマスコミの狙いであり、民主党がこけた後は、「維新の会応援団」として連日テレビ報道が過熱することだろう。当然宣伝が行き渡り、大きな風になることは確かだと思う。しかし今度は民主党の政権交代の嵐の焼き直しですか？と申し上げたい。橋本氏本人の評価はともかく、また100人近い一年生議員が誕生して、2、3年お勉強の時間を提供する内に、日本の経済は沈没してしまうのではないかと心配である。日本の政治風土を少しでも今よりまなものにするには、中選挙区制度に戻すしかないと確信するものである。

私は政界への再チャレンジに向けて、憲法改正、教育改革、デフレ脱却、選挙制度改革を掲げて戦いたいと思っている。

この放送の目的は、日本会議をはじめとする様々な団体の後援や、篤志家のご協力、そして広範囲な会員のご支援をいただきながら地元・福岡で定期的にタイムリーな話題を提供しながら、「誇りある国づくり運動」を放送面から支えていくことにあります。

どのような運動や活動も、その目的がいかにか崇高であろうと、一般の人々に伝え理解させ共感を勝ち取っていくための媒体なくしては、先細ってしまいます。そして、その媒体も自らの鋭意と努力で不断に発信し続ける熱意と、それを支える同志の存在なくしては成り立ちえません。いかに困難であろうと100%以前の媒体を創造していく覚悟が問われる由縁です。

しかし残念なことにはこの部分が脆弱なのがわが国の保守です。左傾化していく現状を苦々しく感じながらも、何もしようとしない「NOアクション」保守、巨大なデモや抗議運動の前になす術もなく黙りこくり、サロンで内輪話に明けくれる「ファッション」保守、負の現実を突破せんと冀をもすがり気持で依頼された講演等に法外な謝礼を要求する「ビジネス」保守、経営思想や家庭生活にわが国の伝統や歴史や文化を融合できない「二元論」保守、二言目には戦前は良かったばかりを連発する「懐古」保守、すべての罪をGHQにおしつけてこと足れりとする「自己無罪」保守等々。その弱点をあげつらえば、枚挙に暇がないほどです。

かくなる保守が土台の大きな部分を占めていたがゆえに、わが国の非左翼政党は通算すれば戦後60年以上も国政の中心に位置しながら、他の何者にも遠慮することなく、国益を主張し、発信する自らの伝達手段、放送主体を確立できなかったのではないのでしょうか。

はっきりしていることは、終戦後、わが国は ①自国(領土・領海・領空)を守る交戦権・自衛権を奪われただけでなく、②民族の後継者を育成する教育権や ③国民に真実を伝える放送権まで奪われたままであるということです。しかし、この状態を固定化させ黙認し続けることは、他ならぬ自らの依って立つ国家の劣化を座視し、その溶解と崩壊へのシナリオを是認することに外なりません。

戦いやスポーツでもいえることですが、強い者が勝つ訳ではありません。「勝ちたい者」が勝つのです。だからどれだけ「勝ちたい」と思っているのか、が問われる訳です。このことから言えるように、戦後の保守は本気で③の放送権を奪い返そうとは思っていなかったのだと思います。

もしかして紙面を買い、時間をおさえればメッセージを伝えられると思っていたのではないのでしょうか。しかし、これほど安易で能天気な話はありません。紙面を作り、時間を組織化する側に60年間わが身を置かなかつたツケが回ってきたのです。紙面や時間の当座買いで再建できるほど「国づくり」は甘くありません。

どんなに困難であろうと、奪われたものは奪い返す！ これは古今東西、子供でもわかる普遍的な真理であり、歴史を刻むもののエチケットです。そして、この福岡の地で、他に本業をもっている人たちがやむにやまれぬ気持ちで立ち上げたのがスタジオ日本であり、かくなる真理とエチケットを限りなく追求していく試みが日曜討論なのです。

この度、番組が開始された平成15年10月以来のすべての放送ドキュメントをアーカイブで視聴できるようにいたしました。同時に従来の日曜討論番組でカバーできない講演等は「特別報道番組」として別枠でくり発信させました。

関係諸氏の倍日のご理解とご協力を切にお願いする次第です。

日中関係で、洗脳による日本人の誤った歴史認識と贖罪意識が我が国益に甚大な被害を与えています。この事態の解決には日本人の覚醒しかありません。つまり、日本が中国を侵略した、南京大虐殺、等と云うのは事実無根であり中国のプロパガンダに過ぎないことに気が付くことが必要です。国内的には中国のプロパガンダを暴くことは必要であり有効ですが、中国人を相手にする時は、嘘八百を言わない、と反論するだけでは効果がありません。何しろ中国人はウソを言うことに何ら罪悪感を感じないのですから。中国人が平気でウソをつく民族であることは、毒ギョーザ事件、高速鉄道事故、尖閣中国漁船体当たり事件などで見られた中国高官の発言から多くの日本人にも知られるようになりましたが、嘘つき民族に対しては、それなりの手法を取ることが必要でしょう。一般に、論争する時は自分の土俵に引きずり込むのが有利とも言いますが、ここは敢えて相手の土俵に乗っかることも有効と思っています。故名越二荒之助先生の弁はこうです。「南京大虐殺30万人と日本は非難されるが、さすが毛沢東主席には敵いませんな、ケタが違う、なにしろ毛主席は4000万人虐殺だから、と言ってやらないとダメだ。」

毛沢東は、1958年から3年間の大躍進政策の失敗で2000万人～4000万人を餓死させ、1966年から10年間の文化大革命で1000万人を犠牲にしたと言われています。毛沢東の伝記「マオ」でエンチアンは、毛沢東は4000万人の中国人の命と引き換えに原爆を手に入れたと書いています。日本が中国を侵略したと言われたら、名越流にこう言います。「毛主席が、訪申した佐々木更三氏が謝罪した時に何と言ったか知っていますか？ <あなたがた皇軍がなかったとしたら、わたしたちは政権を奪取することができませんでした>と言ったのですよ」。中国共産党政権の誕生の陰の恩人は「日本軍侵略」だよ、と堂々とやってやりましょう。中国人に恩着せがましく言えばいいのです。中国人の論理に乗っかって、中国の言い分を逆手に取って攻めることです。日本人とは全く逆で、中国人はウソをつかないことに何の価値も置いていません。これが真実だ、あれはウソだ、と正攻法で言っても中国人には堪えません。ひと捻りして、変化球でピシヤリと言うのです。名越流は、「南京30万人大虐殺」「日本中国侵略」を認めるのでダメだ、と言う人がいましたが、日中近代史の史実は我が国にとって不利なことは殆どないので、詭弁とも言えるこの論法が生きてきます。中国人を相手の歴史論争は中国の主張を撥ねつけるのが最善である、中国人にプロパガンダは日本人には効かないと分らせるのが第一である。これが日曜討論で得た結論です。



(専)ライセンススカレッジ理事長

## 小菅 亥三郎

奪われたものは  
奪い返す



(医)香月内科医院理事長

香月 洋一  
中国のプロパガンダを  
徹底的に暴く



教育研究会未来理事長

## 北村 弥枝

### 真の日本国の 建国の為に力を 尽くしましょう

常日頃、福岡の地で国家の為にお尽くし頂いている小菅玄三郎様の尊いお姿を拝し、私は、京都という離れた土地からですが、いつも感謝の気持ちでおります。いつも「頑張って下さい」と応援する心を持たせて頂いております。「日曜討論」が、小菅様を中心とした多くの皆様のご尽力により、真正保守の側が自然体で自ら信じる正論を堂々と主張する、というコンセプトのもとで、毎週欠かさず放送されているということに、本当に敬意を表さずにはいられません。

我が国は、本当に世界の理想とされるべき尊い国です。畏くも天皇陛下におかせられましては、朝な夕なに、「国平らかに、民安かれ」と神に祈られていらっしゃいます。そして、神武天皇以来、歴代天皇のそのようなお姿を拝している私たち日本国の国民は、天皇陛下の大御心をいただいて、むつび和らぎ、神の恵みと祖先の恩とに感謝し、明き清きまことの心を以って生き、世のため人のために奉仕し、神の意識で世をつくり固め、社会を造り上げるよう常にいそむ心で、生きておりました。

この君民一体の調和の尊い姿の中こそ、世界を真の平和へと導く尊い思想が存在します。そして、神代の時代、伊邪那岐命と伊邪那美命の国生み神話でも示されていますように、男性が最初に言葉を発し、女性がそれに従うという姿、すなわち夫婦の間に陰陽の調和がはかられた時に、すべてが成就するエネルギーがこの世に満ち溢れます。

かつての日本女性は、「大和なでしこ」として世界から尊ばれていました。女性が家庭の中で「妻・嫁・母」の愛をお出し頂ければ、良いエネルギーが循環して、夫や子供たちは心が満たされます。

このような陰陽の調和のある家庭の中に、すべての幸せが生まれる生き方が存在します。このような家庭が、かつての日本の家庭の理想であり、戦前には、日本中にこのような家庭が多く存在致しました。しかし、残念なことに、戦後体制が長く続く中で、日本人の魂の根源となるもののほとんどが、崩れ去ってしまっております。しかも、昨今、このような尊い我が国を汚すような思想が広まり、そのような思想を信奉する人が多く存在します。このような世の動きに便乗するかのよう、敢えて日本国を汚すような動きをする政治家も多く目にします。

このような日本国の現状の中で、福岡の地から、日本を愛し、日本を正しく見つめる、素晴らしい放送がされていることに、何度も申し上げますが、深い感謝しかございません。本当に小菅様をはじめ関係者の皆様、有難うございます。皆様、共に、真の日本国の建設の為に力を尽くしましょう。



不二歌道會  
九州地方聯合會會長

## 伊藤 侂

### 故加藤三之輔翁に 聞いたある 日本人の伝説

平成5年、野村秋介氏が朝日新聞社内内で自決したのをきっかけに、それまでの朝日新聞社内での微温的雰囲気と度が過ぎた偏向具合に嫌気がさして、ふと高校時代から気になっていた大東塾という団体に私は電話をしていた。正直戦前からの大東塾がまだあったということに驚いた。塾本部から当時、塾の参与であった故加藤三之輔先生が我が家のすぐそばに住んでおられたということを知り、さっそくお尋ねしたのが私の「国直しの道」への第一歩であったと思う。古事記、万葉集など国歌をはじめとする国学の基本を浅学非才な私へ何かとご教示をいただき、一方では先生が天津在留時代から戦犯拘留中に触れた支那の文化、風習、支那人とのつきあい方などをお聞きして興味は尽きなかった。

ある日、加藤先生から問いかげられた。「伊藤さん、玉音放送直後も武装解除をせずにソ連軍と激しく戦いながら後退し、奥地の在留邦人4万人を無事守り抜き、天津、北京経由で帰還させた軍司令官がいたのを知っていますか。」満州などでは関東軍が先に逃げたなどと悪意を伴った風評が戦後には流布される中であって、帰国する在留邦人を守りながら後退した兵団があったということは驚くべきことであった。そして「それは駐蒙軍司令官の根本博陸軍中將ですよ」と教えていただいた。この史実については朝日新聞の稲垣武氏が自著「昭和20年8月20日 内蒙古・邦人四万奇跡の脱出」(昭和56年刊・PHP新書)で初めて公にした。また当の根本元中將は戦後、台湾に単身密航し、蒋介石の軍事顧問として金門島の戦いを指導して国民党を勝利に導いた。実は邦人四万人の脱出には当時の中国国府軍が背後から広く支援の手を差し伸べていたという背景があり、根本元中將はその返礼としての信義を尽くしたというものである。このことは近著「その命、義に捧ぐ」(門田隆将・PHP新書)に詳しい。いわゆる「南京大虐殺」からわずか8年後にあつて、蒋介石が邦人脱出に積極的に協力したという事実は何を物語るか。歴史は時として峻烈に真実を照らし出すものである。

『日曜討論』には、過去二回、出演させていただきました。一回目は、今年の元日放映の「日本再生は保守を旗幟にして」というタイトルのもので、小菅玄三郎先生、香月洋一先生と対談させていただきました。二回目は、今年6月の特別報道番組「ありがとう台湾 世界一の親日国へ感謝」であり、小菅先生の司会のもと、黄文雄先生、柳原憲一先生と対談する機会を賜りました。

『日曜討論』は平成15年の番組開始からすでに9年目です。大手スポンサーがついているわけでも、何らかの公的機関によって運営されているわけでもない当番組が、これほど長く、またゆるぎない信念に基づき運営されているのは大変素晴らしいことです。小菅先生、香月先生をはじめ番組を支える皆様のご尽力の賜物にほかなりません。番組の枠組み、およびこれまでのアーカイブは、すでに国民の共有財産になりつつあると思います。

当番組が毎週、福岡から発信されていることは象徴的です。九州、そして福岡という土地は、いうまでもなく防人の土地です。明治維新を支えた志士たちも、九州やその近辺から出ました。九州・福岡は、東シナ海や玄界灘に面し、良くも悪くも古くから日本と外国との接点でした。外国との実際的な接触のなかで、日本や世界に対する現実的認識やその認識に裏打ちされた愛国心を育む土地柄が、九州・福岡にはあります。また中世より続く自治都市・博多の伝統や、明治から昭和にかけて躍動した玄洋社の精神にみられるように、ときの権威や風潮に媚びず、惑わされず、己の信念を貫く自律心と強靭さも九州・福岡の特徴です。

日本は、これからしばらく非常に緊迫した東アジア情勢のなかで生きていかなければなりません。『日曜討論』が、歪んだ戦後の言論空間を是正し、激動の時代を乗り切るための確固とした道標の役割を今後いっそう果たしていくことを願っております。



九州大学大学院准教授  
**施 光 恒**

歪んだ戦後の  
言論空間を  
是正する  
『日曜討論』

私ども福岡教育連盟は昭和47年「福岡県高等学校新教職員組合(新高教組)」として発足し、「すべての子どもをわが子として」をスローガンとして、「日本の歴史と伝統、文化を尊重し、我が国と郷土を愛する心を養う教育の実践」を綱領の一つに掲げ、真の公教育の実現を目指して活動している教育正常化のための教職員団体です。

東京裁判、GHQによる占領政策に端を発する戦後教育の負の遺産は、未だ払拭されておらず、1950年代初め、ある日本共産党幹部が「何も武闘革命などする必要はない。共産党が作った教科書で、社会主義革命を信奉する日教組の教師が日本の支配者となり指導者となる。教育で共産革命は達成できる」と述べたことが、現実となった様相を呈しており、国家観を持ったリーダーの不在、公を忘れ個性重視で育った親世代の増加、子供の自尊感情の低下など連鎖的な日本人の精神の崩壊を招いています。また、私達の大半がこのことに無自覚であることが最大の問題であると言えるでしょう。

教育とは先人の美德を伝えていくことに他ならず、今こそ正しい歴史観に基づき、子供達に勇気と誇りを持たせる教育実践に取り組みねばなりません。まず、教育現場から発信していくことが必要ですが、同時に社会全体で大きなうねりとしていくことも大切だと思います。

このような意味において、「日本再建」を主題とし、「国益を守り、真実を語り、真心を尽くす」という『日曜討論』はその大きな力であります。この10年の歩みに敬意を表するとともに、今後も誇りある国づくりのためにますます発展されることを祈念いたします。



福岡教育連盟執行委員長  
**矢ヶ部 大 輔**

真の公教育の  
実現を目指して



## 『スタジオ日本 日曜討論番組を支える会』

# 定期総会・記念講演会・懇親会

今回で5回目となる「日曜討論番組を支える会」(以下「支える会」)の定期総会・記念講演会並びに懇親会が平成23年8月21日(日)に福岡市中央区天神のテルラホールで開催された。82名の特別会員(法人・個人)や正会員、番組会員の参加があった。

第1部の総会は参加者全員による国旗敬礼、国歌斉唱で始まった。

開会の辞に立った私立博多高等学校教諭の木村秀人氏は、「現在の若者たちには日本人としての自覚、愛国心が欠如している。先の大戦で先人たちが命をかけて守ろうとした日本を取り戻すためにスタジオ日本は頑張っている」と挨拶された。

また、世話人を代表して小菅亥三郎代表世話人(専門学校ライセンスカレッジ理事長)が、「放送開始以来8年の間には放送局の名称変更や代表者交替、そして閉局等がありながらも、支える会を中心とする関係各位のご支援と放送局以来継続勤務して下さっている職員の努力により、この番組は奇跡的に続いている。これからも、一旦確立した権威やかくも大勢の皆様のご労苦の上に認知していただいた伝統と実績を崩さないように、かたくなにひたむきに守って参ります」と謝意を述べられた。

続いて小菅亥三郎代表世話人が全会一致で議長に選出され、議事が進行されていった。

まず平成22年度の活動報告に立った香月洋一副代表世話人(香月内科医院理事長)は、平成22年度に

放送した52回の各シリーズごとの放送内容の紹介を行い、リスナーの皆様から大きな反響を呼んだとの報告があった。また、「支える会」の会員も昨年の146名から今年は186名になり、番組継続の資金的補強も順調に強化されていると説明があった。

その後、収支決算報告・監査報告に続き、平成23年度の活動計画について「支える会」世話人の梶栗勝敏氏(日本会議福岡事務局長)より説明があった。第一に、他のメディアが放送しないが是非多くの国民に知って頂きたい情報を発信すること。第二に、会員拡大による財源の確保を図りながら、良質な番組の制作と放送を続けてゆく。その為、事務局の営業職を中心に会員の皆様の積極的なご協力でより広範な皆様のご加入を目指すこと。第三に、過去の番組を随意で視聴できるよう、ユーストリームに移行してからの放送分をアーカイブ化を達成し公開にこぎつけました。これからはコミュニティFM時代370回分・925時間のアーカイブ化に挑むこと、また活動内容を集大成した記録集(雑誌「ライセンスメイト」日曜討論

特集)の作成をすることなどが提案され、承認された。

役員選任では、今年度から新たに角洋一郎氏(九州不動産専門学院グループ同窓会「九栄会」会長)が就任すると発表があった。

満場一致の拍手により全ての議事は承認され、古賀誠氏(楽天堂広橋病院医師)の閉会の辞で、総会は滞りなく終了した。

第2部の記念講演会では、日本会議専任研究員の江崎道朗先生にご登壇を頂き、『マスコミの報じない歴史の真実—開戦70周年~東京裁判史観の見直しがアメリカではじまった—』と題し、昨年の尖閣問題の最新情報や教育改革による変化、また戦後50年を過ぎ各国の公開文書により歴史の見直しが行われつつあることなど、興味深いお話をして頂いた。

講演会の後は年中無休で頑張っておられるコメンテーターやスタッフの労をねぎらい、恒例の懇親会が和やかな雰囲気の中、盛大に行われた。なお総会・講演会の模様は、報道特別番組として番組HPのアーカイブでご覧いただけます。

(<http://touron.l-mate.net>)







第6回

## 定期総会・記念講演会・懇親会

平成15年10月の放送開始以来、多くの憂国の士の皆様にご支援を賜り、平成17年8月に「日曜討論番組を支える会」を設立することができました。爾来、会員数も着実に増加し、番組を物心両面から下支える団体になりました。

そこでこの度、会員の皆様に活動と収支の報告をさせていただくために、右記の通り定期総会・講演会・懇親会を開催いたします。

ご多忙中の折、誠に恐縮でございますが、何卒ご臨席賜りますようご案内申し上げます。

### ねまら 労いあってこそその奉仕活動

私たちは誇りある国づくりのために、放送開始当初から慰労会・懇親会を行い、お互いの絆を深め、人の輪(和)を広げてまいりました。その延長線上に「支える会」の誕生があります。右記はその集いのあゆみです。

15.11.9	9人・梅の花
15.12.21	9人・梅の花
16.4.4	13人・ウォーターリリー
16.8.8	24人・花万葉
16.9.26	14人・花万葉
17.3.5	15人・花万葉
17.8.21	32人・平和樓
18.8.20	37人・テルラホール
19.8.19	38人・スカイホール
20.8.17	44人・スカイホール
21.8.23	47人・テルラホール
21.12.10	24人・花万葉
22.8.22	51人・テルラホール
22.12.10	40人・松幸
23.8.21	51人・テルラホール
23.12.9	35人・松幸

年号は平成です。

## 定期総会・講演会・懇親会

一反日国家の対日工作に呼応、国家崩壊を目論む一内なる敵 反日メディアを糾す



講師

小山 和伸 先生

(神奈川大学経済学部教授・  
一般社団法人メディア報道  
研究政策センター理事長)

平成 24 年 8 月 26 日(日)

定期総会 13:00 ~ 14:15

記念講演会 14:30 ~ 15:30

参加費 500 円(会員無料)

会場 テルラホール

福岡市中央区渡辺通 5-25-18

天神テラビル4階

TEL(092)732-4441

懇親会 16:00 ~ 17:30

どなたでも  
ご参加  
できます。

講演会終了時に懇親会(4,000円)

(お問い合わせ・お申し込み)

スタジオ日本 日曜討論番組を支える会

TEL(092)721-0101 FAX(092)725-3190

〒810-0001 福岡市中央区天神 1-3-38

# 日曜討論9年の歩み

## シリーズ紹介

『日曜討論』の番組も、平成15年10月5日の第1回放送より、毎週日曜日に欠かさことなく放送され、9周年を迎えました。また今年6月には放送回数も456回を達成し、地場・福岡において前例のないユニークな「社会派番組」として、その地位を確立してきました。

『日曜討論』継続の要因は、一にも二にもボランティア出演者の方々の深いご理解とご支援の賜物と感謝申し上げます。

今回は、『日曜討論9年の歩み』として、第1回シリーズより今日に至る全75シリーズ(本篇72、年末年始篇1、番組開始周年篇1、特別篇1)と特別報道番組の内容をご紹介します。

### 『男女共同参画を考える』

本篇第1弾 全6回  
平成15年10月5日～平成15年11月9日

『日曜討論』を生かせる切っ掛けとなったシリーズです。平成15年1月よりスタートした福岡市の男女共同参画推進条例案は、市民の感覚とは大きく懸け離れたジェンダーフリー思想に基づく内容で進められていました。その内容の偏向性、危険性を市民に訴えるために取り上げた6回の内容の反響は大きく、福岡市の男女共同参画課もこの番組には無関心でいられなくなりました。有難いことに、この番組の効果もあって、福岡市が当初発表した「中間取りまとめ(案)」に対して市民から当局の予想を遥かに超える反対意見が多数寄せられ、偏向し過ぎた市の条例案に大幅な軌道修正を迫りました。



『日曜討論』が誕生するきっかけになった日本会議福岡主催の「男女共同参画講演会」(平成15年8月30日)

### 『歴史教育を考える』

本篇第2弾 全6回  
平成15年11月16日～平成15年12月21日

昭和57年の教科書誤報事件を機に検定基準に「近隣諸国条項」が設けられ、わが国の歴史教育は大きく歪められてしまいました。嘗ては史実が未確定故に教科書に不掲載であった南京事件は今日では日本軍の侵略戦争の象徴として描かれており、この誤りを正すために上杉千年先生が岐阜県から3回連続出演して戴きました。南京事件を巡る『日曜討論』のこの内容はネットの世界でも反響があり、数万件に及ぶ書き込みがありました。一方、2回に亘って放送したアジア解放の歴史に対しては現役の学生から学校では習ったことのない歴史として感動と感謝のメールが寄せられました。



独立記念日にスカルノ・ハッタ公園でムルデカ(独立)を叫ぶインドネシア人。戦後、インドネシアの独立に日本人の貢献は大きかった。

### 『日本の建国を考える』

本篇第3弾 全6回  
平成16年1月11日～平成16年2月15日

平成16年年頭のこのシリーズより『日曜討論』を貫くテーマを「日本再発見」に決定しました。戦後、占領政策により喪失された日本人としてのアイデンティティを回復していくためです。2月11日の「建国記念の日」を控え、わが国の国柄について取り上げました。世界に190ヶ国以上存在する国々の中で世界最大且つ最古の君主国家はわが国であり、神話からの歴史を今なお持続する独特の国柄を保持しています。「子どもたちに伝えたい」シリーズとして、日本の伝統・文化の根源となる神道や、神話に見られる神々の世界、また神武建国の歴史、天皇陛下のご公務等について取り上げました。



古事記・日本書紀の伝える神話。岩屋にこもった天照大神を呼び出すとする八万の神々

### 『海の彼方のニッポン "台湾"を訪ねて』

本篇第4弾 全6回  
平成16年2月22日～平成16年3月28日

日本と台湾は運命共同体であります。平成11年より始まった日華(台)親善友好慰問訪問団として訪台された方々の体験談を中心に、台湾の歴史や50年に亘る統治時代の日本の功績、また台湾で高く評価されている「日本精神」、日本と台湾の将来など多岐に亘って紹介しました。日本統治時代の台湾生まれの台湾育ちの森晴治先生からは当時の貴重な証言を戴きました。このシリーズでは台湾の留学生にも出演して戴き、台湾の関係機関や留学生の会からも過分の謝意と評価を戴きました。このシリーズの内容は全て台湾本国にも寄贈されました。



3万3千柱の元日本軍の台湾人戦没者の慰霊と、日本・台湾の友好、親善、国交回復を願って平成11年より実施されている日華(台)親善友好慰問訪問団

### 『日本の国境線を考える』

本篇第5弾 全6回  
平成16年4月4日～平成16年5月9日

領土問題は国家の盛衰を左右しかねない重要な問題であります。北方領土、尖閣諸島、竹島がいずれもわが国の正当な領土でありながら、多くの国民には十分認識されていません。領土問題の解決には政府のみならず国民の意志と結束が必要であります。北方領土の訪問者や尖閣諸島上陸体験者、戦前の朝鮮の生活体験者にも出演して戴き、それぞれの歴史的な背景からわが国領土の正当性、現状や課題、また打開策について取り上げました。このシリーズの直前には中国の活動家が魚釣島に上陸したり、沖ノ鳥島は島ではなく岩であると中国政府の暴言があり、まことにタイムリーな企画となりました。



2月7日の「北方領土の日」に開催された北方領土返還要求全国大会には小泉首相も出席。返還実現への強い決意が示された(平成16年2月7日)

### 『近くて遠い国・韓国』

本篇第6弾 全6回  
平成16年5月16日～平成16年6月20日

日本と韓国が基本条約を締結し、国交正常化より40年の年月が経過しました。しかしながら、日本と韓国の間には埋め難い問題が横たわっています。特に平成16年3月韓国国会で「親日派特別法」が制定されるなど両国の関係を一層難しくしています。「植民地・朝鮮の研究」の杉本幹夫先生が東京から3回も来福され、日韓併合の背景から朝鮮近代化へのわが国の努力、戦後の補償問題など、日韓両国の根底にある日韓併合から国交回復までの歴史を丁寧に説明して戴きました。中でも日韓国交回復時にわが国が支払った補償は、当時韓国の請求により北朝鮮のみであった事実を指摘されました。



昭和17年の新興工業都市・興南に工場が次々に建ち、産業革命を起こしえなかった朝鮮に、日韓併合時代が国は、インフラ整備を行い近代化を図った

日本再発見

### 『活躍する自衛隊』

本篇第7弾 全6回  
平成16年7月4日～平成16年8月8日

戦後、自衛隊は国家・国民のために様々な活躍をしてきましたが、マスコミは意図問題が絡む自衛隊を嫌い、活躍する姿を国民の目から意図的に遠ざけてきました。しかし平成3年のペルシア湾への掃海艇派遣、同年の阪神淡路大震災、凶悪なテロ行為だったオウムサリン事件への対処は自衛隊なくして対応できず、その実力を国民の前に遺憾なく発揮し、自衛隊に対する国民の信頼と期待は格段に向上しました。自衛隊OBの方々によって災害派遣、国際貢献、防衛のための緊急発進など様々な場面で活躍してきた実績を紹介していただき、自衛隊の知られざる真実の姿を明らかにしました。



有珠山の噴火に伴う自衛隊の災害派遣。人命救助、給食給水活動等を実施(平成12年3～7月)

日本再発見

### 『愛は家庭から』

本篇第8弾 全6回  
平成16年8月15日～平成16年9月19日

「世界の母」と慕われたマザー・テレサの「今日、平和を破壊するいはん恐ろしいものは胎児です」と言う言葉に啓発され、胎児の生命を守るために全国各地に「いのちの会」が誕生しました。マザーの「子どもは神様から賜った最も美しい贈り物である」などの心のメッセージを数々紹介しながら、胎児の生命の尊さやこの世の一人ひとりがある存在であることをお伝えし、産むことに悩んでいる方への相談や産まれてくる胎児を支援する同会の感動的な活動を紹介して戴きました。この番組を聴かれて「救われた」との感謝の念から、直接放送局へ来訪された方がありました。



「愛は家庭から始まります」と胎児や子ども達への親の愛を呼びかけられたマザー・テレサ

日本再発見

### 『靖国神社』

本篇第9弾 全6回  
平成16年10月3日～平成16年11月7日

靖国神社には約250万人の英霊が祀られています。毎年約600万人が訪れる靖国神社は世界で最も参拝者が多い慰霊施設です。番組では、靖国神社の創建の歴史から祀られているご祭神、毎日一日も欠かさず行なわれている厳粛な祭典、最も重要な春秋の例大祭、更には昭和殉難者(「犠牲者の呼称は誤り)合祀への経緯、わが国の首相や戦後の各国要人、外国軍隊の靖国神社への参拝を話し、今なおわが国の中心的慰霊施設であることをお話ししました。この番組を聴かれた視聴者から番組で紹介した英霊の方々の遺書に感銘され、「気持ちを入れ替え、これからは靖国神社に参拝したい」とのメールが寄せられました。



毎年8月15日終戦記念日には10万人前後の参拝者が訪れる靖国神社。首相の参拝が期待されている

日本再発見

### 『軍隊体験』

本篇第10弾 全6回  
平成16年11月14日～平成16年12月19日

戦後以来約60年の年月が経過しました。その間、わが国の歴史上最大の困難であった大東亜戦争を戦って経験された方々は殆ど御去られ、真実の戦争経験者の方々の体験を聞く機会も極めて困難になりました。そこで軍規厳正、世界で最も鍛えられた日本帝国軍人を体験された方々に、幼年学校、士官学校、陸軍、海軍、特攻隊などのご経験から今日と比較して、当時の教育や軍隊での体験を語って戴きました。中でも小学校高学年の時に「軍隊から米欧を駆逐しアジア人の手に取り戻すことを人生の志とした」との話には、激動の時代を生きて抜く当時のわが国の青少年の士気の高さに感嘆させられました。



新関東東軍司令部屋上で副官より市街説明を聞く候補生(白濁海・福岡阿蘇東軍連隊常任顧問所蔵写真より)

日本再発見

### 『家族の絆』

本篇第11弾 全6回  
平成17年1月9日～平成17年2月13日

嘗てアルビント・トブラーは、「人類に重大な危機が到来するならば、人々が家庭本来の尊い意義を喪失し、それに由来して家庭が崩壊してしまう時であろう」と予言しました。まさしく家庭の強化、家庭の復活こそ人類の幸福を招く鍵であります。その家庭が幸福になるためには「母親の心のあり方が大切」として、夫を尊敬し家族に愛を与え続ける母親の役割を語り続け、数多くの家庭を救ってきた「教育研究会本来」の方々に出演して戴き、胎児から思春期までの子育て等、数々の素晴らしい実例を山田紹介して戴きました。視聴者からも反響があり、番組には多数のFAXやメールが寄せられました。



全国各地で活発に開催されている教育研究会未来の「親が愛われれば子が変わる」の心の教育講演会

日本再発見

### 『社会の幸福』

本篇第12弾 全6回  
平成16年6月27日、平成17年2月20日～平成17年3月27日

「男女共同参画を考える」シリーズで始まった「日曜討論」も開始以来1年半を迎えました。案の定全国で男女共同参画を巡るトラブルが続出し、その実情を紹介するために八女市、飯塚市、筑後市、太宰府市、大牟田市などで条例案は正に闘ってこられた方々に出演して戴きました。各市町村の条例案は次第に巧妙化、悪質化しており、特に17年3月に制定された飯塚市の条例は全条文の約半分以上がオンプラズマソンについて設けられました。裁判官でも警察官でもないオンプラズマソンに特定の権限を与えることは思想管理社会を生み出し、まさに社会や市民に不幸をもたらすことを警告しました。



本来の「男女共同参画」とは何かについて各地で活発に開かれる講演会

日本再発見

### 『中学歴史教科書』

本篇第13弾 全6回  
平成17年4月3日～平成17年5月8日

平成17年4月3日、扶桑社の「新しい歴史教科書」が検定合格しました。昨年、東京都が現行の扶桑社の教科書を採択した時に横山委員長は「実に共感するところが多い」とコメントしました。このシリーズでは、近年の教科書検定を拘束している「近隣諸国条項」の問題点について検証し、続いて現行の扶桑社と他社の教科書とを比較、決定的な違いが現れる近現代史、特に日韓併合、満州事変、支那事変を取り上げました。最終回は、伊藤智夫先生(日本政策研究センター所長)に出演して戴き、本年検定に合格した最新の扶桑社と各社の歴史教科書とを比較し、扶桑社教科書の特色をアピールしました。



平成18年度から21年度迄4年間に亘って使用される検定合格の扶桑社の歴史教科書。学習指導要領にも最も適した教科書として高い評価を集めている

日本再発見

### 『日本の誇り自衛隊』

本篇第14弾 全6回  
平成17年5月15日～平成17年6月26日

今年3月20日、明治23年福岡管区気象台が観測を開始して以来、県内で最大規模の地震が起こりました。また昨年2月に第一次イラク復興支援隊が派遣されて1年余りが経過しました。いずれも自衛隊の活躍が茶の間を賑わせました。今回は、昨年7・8月の「活躍する自衛隊シリーズ」以降の自衛隊の活躍を中心に紹介しながら、「災害派遣」や「国際平和維持活動」での自衛隊の実績、イラクに駐留する部隊の中で最も評価されている自衛隊の支援活動を紹介しました。加えて自衛隊の本業に関わる「国防」や「新防衛計画大綱」についてはまだ課題が多く、OBの方々より評価以上に将来への懸念が示されました。



わが国を取り巻く安全保障状況は厳しいものがある。朝鮮半島や台湾海峽を巡る問題、中国潜水艦の日本の領海内潜行など、防衛力の整備が望まれる

日本再発見

### 『子どもは授かりもの』

本篇第15弾 全6回  
平成17年7月10日～平成17年8月14日

今日、わが国の将来に最も深刻な影を落としているのは少子高齢化であります。加えて、女性の中から母性の喪失が指摘されるようになり、子どもを産まない女性や結婚を否定する若者が増えています。嘗て「赤ん坊が生まれて一番幸せな国」と謳われ、子どもを中心に存在した温かい社会や慣習がしっかりとわが国を支えていました。福岡県助産師会会長の賀久はつ先生より、女性が持つ本来の天分を發揮し、いのちの継承が行われていく社会を作り上げていくために、「出産の素晴らしさ」や「子育て文化」「結婚教育」など、女性が生きてゆくための様々な助言をして戴きました。




福岡県助産師会会長の賀久はつ先生。4人の子どもを取りあげられたその手は、魔法の手と新聞各紙にも紹介された

**日本再発見**

## 『英霊顕彰』

本編第16弾 全6回  
平成17年8月21日～平成17年9月25日

今年には戦終60周年を迎えました。祖国の自存自衛とアジア解放を賭けて戦った大東亜戦争は、武運拙く敗北の憂き目に遭いました。しかし、わが国の独立の確保と欧米の植民地下苦しいアジア・アフリカ諸国の独立への契機となった事は大きな成果でした。そこには、敵国をも感動せしめ、また鬼神をも泣かせるわが国の英霊の方々の行為がありました。このシリーズでは、大東亜戦争史上の激戦地、サイパン・硫黄島・沖縄・占守島を取り上げ、一身を捧げて戦い敗れた英霊の方々の魂をいっしょに甦らせたことを紹介しました。感謝と追悼の念を持ち、英霊の方々の顕彰こそ後世に生きる私たちの義務であると、感動と決意を新たにさせられました。




天皇皇后両陛下のウイン島行幸啓先立って実施された【中部太平洋方面戦没者追悼】(平成17年6月26日)

**日本再発見**

## 『昭和天皇御巡幸』

本編第17弾 全6回  
平成17年10月2日～平成17年11月6日

わが国は先の大戦で史上未曾有の敗戦を経験しましたが、世界に類を見ない見事な復興と繁栄を経験しました。その背景には、集土と化し、敗戦にうちあがった国民を慰め、産業復興への勇気と激励を与えるために、昭和21年から29年にかけて昭和天皇の全国御巡幸が行われました。当時、同行していた米国の報道人も「国民は本当に心から歓迎して、少しも怠り気味はない。わたしはイギリスのジョージ陛下とトルーマン大統領、マッカーサーにも随行したが天皇ほど人気のある人を知らない。天皇は日本でなお最大の影響力を持っている。とにかく歓迎の熱狂ぶりには驚いた」との感想を残しています。昭和24年5月18日から6月11日までの23日間、約2,000km、御視察180余箇所にとんだ九州御巡幸の感動のドラマを紹介しました。



昭和24年5月21日、天皇陛下の奉迎に7万人の人が集まった福岡奉迎場(平和台)

**日本再発見**

## 『今こそ実行、日本の教育改革』

本編第18弾 全6回  
平成17年11月13日～平成17年12月25日

昭和20年8月15日の敗戦によりわが国は、連合国より6年8ヶ月に及ぶ占領政策が敷かれました。それによりわが国の歴史・伝統・文化が否定され、戦前の教育が否定された戦後教育が始まりました。以来60年を経過した今日、家庭の崩壊、教育の荒廃、社会秩序の不安定化など次々々々問題が起こってまいりました。そうした背景の中で、教育中央審議会でも戦後教育の根本である教育基本法の根本的見直しが提唱され、基本法改正の国民運動が大きく盛り上がりつつあります。

現在、教育基本法改正で論議されている愛国心や宗教的情操教育、また家庭教育や教師の使命、国旗・国歌問題等、現在の教育で考えなければならぬ各種の問題について取り上げました。




「愛国心」「宗教的情操」の涵養の明記と「不当な支配」の削除を訴えた日本会議・民間教育論議主催の国民大会(平成18年4月11日)

**日本再発見**

## 『北朝鮮拉致問題』

本編第19弾 全5回  
平成18年1月15日～平成18年2月19日

近年わが国の国民意識を覚醒させ、愛国心や国家主権、近隣諸国との関係などに大きな影響を与えたのは「北朝鮮による拉致された日本人」事件であります。脱北した北朝鮮元工作員の証言で、横めぐみさんの拉致が明らかになり、家族が実名を公表して救出運動に取り組むことを決断し、平成9年3月に家族会(北朝鮮による拉致被害者家族連絡会)が結成されました。福岡でも早く家族会を支援するための救出組織が生まれました。マスコミが注目する以前より家族会の方々の心情に深く思いを寄せ、活動してきた福岡の「救う会」の方々に出演して戴き、拉致事件とは何か、拉致被害者如何に救出すべきかを語って戴きました。今こそ救出へ向けた全国民の一致団結と、経済制裁をはじめとする政府の敢然とした決断が求められています。




家族会の方々の先頭に北朝鮮への経済制裁を訴える国民大行進(天神・渡辺通)(平成18年7月15日)

**日本再発見**

## 『日本の安全保障』

本編第20弾 全5回  
平成18年2月26日～平成18年3月26日

18年1月20日に第164回通常国会が始まりました。高性能無人ヘリコプターの中国への不正輸出、最新型対空ミサイルシステムの機密が流れるなど国家の安全を揺るがしかねない大問題が起こっているにもかかわらず、安全保障問題には全く目もくれなわが国の国会の様子に、ドイツ在住のクライン孝子氏(「私など、当地ドイツから日本の国会におけるこの空軍最新鋭機密を覗いている」といった)日本は、これで21世紀をいさめくことができたらどうか、もしかすると誠心の運命をなぞるのではない、…一刻何か対策を講じなければこの国の未来はないと断言していることと、厳しい言葉を寄せられました。この言葉を受け、元防衛大学校出身で、陸上自衛隊3等陸尉だった濱口和久氏を中心に、わが国の安全保障問題を取り上げました。



東シナ海への覇権を目指す中国など、外国からの領海侵犯に対しわが国を守る海上自衛隊

**日本再発見**

## 『古高取』

本編第21弾 全6回  
平成18年4月2日～平成18年5月7日

今年には、1606年に宅間宗が開かれて400年を迎えました。直方で焼かれていた時期は僅か20年に満たない期間でしたが、その間には今日の県下の高取焼の礎を築いた輝かしい時代でした。この直方産祥の高取焼を「古高取」(こたかとり)と言います。シリーズでは、「古高取」の特色を紹介するとともに歴史的な考察も行いました。「高取焼」の研究者や産業者の方々からは、文藝・歴長教の折に朝鮮人職工が日本に強制連行された話は殆ど聞かれなかったことや、江戸初期に朝鮮通信使帰国の折に福岡浦崎約300人の朝鮮人俘虜を福岡させたにもかかわらず多くの朝鮮人が再度日本に帰航。また当時、日本人・朝鮮人にかかわらず有能な人物に対しては相当な処遇がされていたことや、日本人・朝鮮人陶工の共同作業があったことも判明。昔問の強制連行説とは隔たりがあり、改めて我が国の宗教・民族を超えた愛が伺われました。



直方市の鷹取川(標高630メートル)の麓に開かれた永満寺宅間窯跡から出土した碗

**日本再発見**

## 『次代の担い手・大学生』

本編第22弾 全6回  
平成18年5月14日～平成18年6月18日

いずれの国でも大学生は、次代の国家を担う有望な人材であります。日本としての誇りを持ち、日本の将来を望むために大学で様々な活動を展開している全日本学生文化会議の学生に出演して貰いました。同会議では、「行動し、体験し、思索する」をモットーに「4つの事業」を展開しています。①教育再生へ向けた「臨海学校」の開催。②拉致問題解決に向けての「日韓学生共鳴使節団」の派遣。③真実の歴史研究のための『英霊顕彰—歴史教』の実施。④国柄の中心でいらつづける天皇皇后両陛下の地方行幸への「奉迎活動」。小学生との「臨海学校」をはじめ、中学生と一緒に知識・万世傳政新念館への研修行事の開催、韓国大学生との積極的な対話と交流など、その行動力と活躍には目を見張るものがありました。



ソウル神守大学の学生と拉致問題について自然した討論を展開する日韓学生共鳴使節団


**日本再発見**

## 『幸せな結婚』

本編第23弾 全6回  
平成18年6月25日～平成18年7月30日

現在、男女共同参画や男女平等のもとに小学校低学年から「性教育」が行なわれています。しかしそれは生命の尊厳を子供たちに実感させる教育ではなく、子供たちに徒に性への関心を高め羞恥心や罪悪感を生み出す教育になっています。学校教育で進められている現在の誤った性教育は子供たちの心身を傷つけており、親への専断教育が生まれる教育にはなっていません。

幸せな結婚は当事者だけでなく社会全体を幸福にします。子供たちが結婚を望み、よき家庭を築くことは立派な社会を築くこととなります。そのために親から子どもに伝える教育とは何か、幸福な結婚へ大切なことは何か、生命の教育、子育て、家庭教育などについて教育研究会未来の方々に体験談をもとにお話して戴きました。



夫婦が調和すれば家族みんなが幸せになる。教育研究会未来の「心の教育」講演会のポスター(一部)


**日本再発見**

## 『首相の靖國参拝』

本編第24弾 全4回  
平成18年8月6日～平成18年8月27日

靖國神社の首相参拝は、中国の内政干渉に屈従するかのよう昭和60年の中曽根康弘首相(当時)以来中止されてきました。しかし平成13年8月13日、小泉純一郎首相は16年参拝に靖國神社への首相参拝を実現しました。だが首相参拝に対する内外の批判は激しく、日中関係や反対する国会議員を配慮して首相は毎年終戦記念日を選び続け、平成17年に至っては礼服ではなく平服による、しかも拝殿前の自由参拝という、一國の首相としては失態を犯した参拝が行われました。

このシリーズでは、首相の靖國参拝が違憲でないことや所謂「戦犯」と称された方々の合祀問題などを取り上げ、8月15日の終戦記念日の首相による公式参拝を訴えました。シリーズ最中の平成18年8月15日、21年ぶりに終戦記念日における首相の公式参拝が実現しました。



終戦記念日に靖國神社に公式参拝する小泉首相(平成18年)

日本再発見

### 『私たちの国民保護法』

本篇第25弾 全4回  
平成18年9月3日～平成18年7月24日

平成16年6月14日に「国民保護法」が成立しました。この「国民保護法」は、有事に際して国民の生命・身体・財産などを守るために、県や市町村の役割、また国民の義務・協力が必要とされました。わが国が武力攻撃等を受けた有事に対して有効に対処するため戦後初めて制定された法律です。この法律に基づいて都道府県では17年度中に、また各市町村では18年度中に「国民保護計画」の策定が義務づけられています。

このシリーズでは自衛隊OBの方々にご出演いただき、国民への周知が求められる「国民保護法」や「国民保護計画」、またスイスや英国など他国の「民間防衛」との相違点を分かり易く紹介していただきました。どんなに意義のある法律ができていても非常時における現実とは自助・共助：自助＝7：2：1であり、自助が最も大切であることを強調され、国民一人ひとりの普段からの心がけや備えが重要であることを指摘されました。



あなたと街を守るために  
国民保護のマニュアル



「国民保護法」と「国民保護計画」が紹介された国民必携のマニュアル

日本再発見

### 『韓国最新レポート』

本篇第26弾 全6回  
平成18年10月15日～平成18年11月19日

平成15年より毎年15名前後で9月下旬に「日韓学生共鳴使節団」が結成され、日本と韓国との連携による拉致被害者救出運動へむけて韓国訪問が行われています。現地では拉致被害者家族会や脱北者などの会議、地元の韓国学生を招いての「日韓学生フォーラム」の開催など、拉致問題を通じて日韓の交流が行われています。中でも学生とのフォーラムは日韓に横たわる歴史や領土問題などで話が及び、毎回白熱した議論が展開されています。更に今回のシリーズでは、休戦状態にある朝鮮半島の軍事境界線の板門店や日本の領土である竹島を韓国の領土として偽旗宣伝している鬱陵島の視察やレポートとして載せました。驚きだったのは、平成12年南北首脳会談の失敗以来、韓国戦争の強硬本気で北朝鮮を敵視する姿勢から、韓国太陽政策や北朝鮮の金正日を礼賛する国に変貌していたことでした。



韓国の拉致被害者救出に取り組むメンバーとの記念撮影

日本再発見

### 『満州事変・支那事変は侵略ではない』

本篇第27弾 全6回  
平成18年11月26日～平成18年12月31日

東京裁判はわが国の歴史観を根柢から覆しました。今日政府や国民は父祖が歩んだ歴史や業績を正しく理解することができなくなりつつあります。歴史が継承されなければ民族や国家は変質してしまいます。日本が日本であるためには、自国の歴史を正しく回復することが不可欠です。東京裁判では、満州事変以降の戦争は「侵略戦争」と断罪されたために、「十五年戦争史観」など思ってもつかない歴史観が横行しています。このシリーズの前半では、満州帝国誕生の経緯や当時の内外の反応、また満州帝国が残した遺産について検証しました。後半では、支那事変の対馬や南万事件について触れ、南京大屠殺は捏造であり、国民堂のプロパガンダであったことが紹介されました。今や満州事変勃発の背景には、満州での権益を求める米ソの謀略があったことが明らかになっています。



五族協和を謳った満州帝国の首都(新京)

日本再発見

### 『日韓併合を検証する』

本篇第28弾 全12回  
平成19年1月14日～平成19年4月1日

日本と韓国に横たわる大きな問題は歴史問題です。中でも最大の問題は日韓併合です。一国が他国に併合され、その国の文化や伝統が徹底的に破壊されたのであれば、これほどの屈辱はないでしょう。しかしわが国の日韓併合は、西洋列強の植民地とは全く異なり、日本本土と同様の近代国家に発展させていく国家的事業でした。従って、わが国の血脈の中から毎年莫大な資金が持ち出され、教育の普及、殖産興業、公衆衛生の推進、インフラ整備など、朝鮮半島は35年間の間に驚くべき発展を遂げました。

今日、巷間に流布している誤った日韓併合の認識や更には歴史改定、朝鮮人強制連行などについても、精緻且つ豊富な資料のもとに徹底的な検証が行われました。内容の深さに加え、このシリーズは連続12回(通常は6回)という最長の記録を樹立。香月洋一氏(内科医)の労作のシリーズでした。



近代国家から大きく遅れていた日韓併合前の朝鮮

日本再発見

### 『日本のこころ-歌の玉手箱』

本篇第29弾 全6回  
平成19年4月8日～平成19年5月13日

現在、福岡で活躍されているボーカリスト小柳有美さんをパーソナリティに迎え、6回の番組を構成して載せました。明治から昭和初期にかけて作曲・作詞されたたくさんの日本人に愛唱されてきた戦前や戦時、戦後多くの国民に親しまれた懐かしい思い出しの歌や愛唱歌など、リスナーの方からのリクエストにもお応えして、100曲近い曲を紹介しました。また、日本の伝統的楽器である箏の美しい音色から、モンゴルのホーミーといわれる伝統的な発声法を用いた歌など日本人が日頃あまり聞かない世界の伝統的な音楽もご紹介しました。シリーズの最後は、作曲活動をされている若狭大輔氏をお迎えして、終戦60周年の節目に主催されたコンサートで特攻隊の方々のことを偲んで作られた曲を披露して載せました。

日本人に歌い継がれてきた曲や歌詞の素晴らしさ、音楽の持つ世界の広がりや堪能させて戴いたシリーズでした。



日本人の心に残る数多くの歌を紹介

日本再発見

### 『国境の島・対馬を守れ』

本篇第30弾 全5回  
平成19年5月20日～平成19年6月24日

対馬は長崎県に所属する日本最北西端の島であり、韓国とは僅か50kmしか離れていない国境の島です。しかし今日対馬は、産業の衰退により若者が毎年流出、それに伴い島は過疎化・高齢化が一層進み、市の財政は逼迫しております。こうした事態を憂慮した対馬では、10数年前より韓国からの観光客誘致に努力。その結果、平成7年には4,500人だった韓国の訪問客が18年には85,000人に200倍近い数に膨れ上がりました。しかしそのことが逆に、対馬に様々な被害や波紋を広げております。韓国人による土地や建物の買収、韓国の品物・旅館の価格の引き、アピピやササエの密着、更には「対馬は韓国の領土」と説明する韓国人が大勢など、このままでは対馬は韓国に取られてしまうのでは……との不安な声が島民から囁かれるようになりました。



伝統的な「厳瀬港まつり」も「対馬アリラ」なまつりの名称に奪われつつある

対馬の住民の方に出演して戴いた危機的な実情をお話しして載せました。また月刊誌「諸君」や産経新聞でも対馬問題が取り上げられるなど、時宜に合った企画となりました。

日本再発見

### 『元寇と博多』

本篇第31弾 全6回  
平成19年7月1日～平成19年8月12日

今から730年前、わが国は存亡の危機に襲われました。当時世界最大艦隊を誇った元による来襲(蒙元襲来)でありました。当時、ヨーロッパから船乗りが来た大船乗りがいた元(蒙古)は、文永11年(弘安4年)の二度に亘ってわが国に大軍を送り、侵略してきました。

船乗りと戦った博多の戦い、博多でも苦戦を強いられましたが、鎌倉武士は怯むことなく勇敢に戦った。二度に亘る元寇の侵略を撃退した国は世界史に例がなく、それは神風という決して偶然の出来事ではありませぬ。命を掛けて元軍に勝利した武士の戦い、あつてのことであり、敵の意思をしき、自然の猛威をも味方にする活躍をしたことがあげられます。この博多は元寇のゆかりの深い土地であります。また元寇に関する多くの史跡や碑などが残されています。元寇の顕彰運動は日本が近代国家への歩み始めた明治時代の中期より起り、今日、その痕跡(にんせき)が多く残っています。



昼夜を問わず元軍の船に襲撃をかける鎌倉武士

日本再発見

### 『安倍政権の成果を検証する』

本篇第32弾 全6回  
平成19年8月19日～平成19年9月23日

安倍晋三政権は9月12日突然の辞任発表で、僅か1ヵ月で終わりました。しかし、その成果は評価すべきものが多くあります。「戦後70年-チームの旗印」を掲げ、そのことによって「美しい国」日本を作ろうという明確な視座を描き、自民党結党以来の目標である憲法改正を視野に国民投票法を成立させ、又60年ぶりとなる教育基本法改正も実現させました。やつぎばや、重要法案を成立させたその政治姿勢は、新しい時代の到来に期待を抱かせるものでした。

また、成立した法案には他にも防衛予算昇格、海洋基本法、教育三法などがあり、さらに国内政策、外交政策においてもみるべきものが多数あります。短期間に挙げた安倍政権の成果を検証し、その意味を考えていきます。



護国館から丸の内線橋を眺めながら語る安倍首相

日本再発見

### 『明日の日本を担う大学生』

本篇第33弾 全6回  
平成19年9月30日～平成19年11月11日

今回のシリーズでは、全九州学生文化会議で活躍している大学生の取り組みについて紹介します。教育・経済・外交を始めて、わが国の今後の行く末が一体どうなるのか、との不安を抱く大学生達が、自ら足で行動し、様々な活動に取り組みしています。歴史を顧みれば、いつの時代においても困難に立ち上がり、道を切り開いてきたのは青年たちでした。その先人たちの志を継(か)がいて、大学生たちが日本の歴史伝統文化を勉強し、自ら実践に取組む取り組み、または海外に赴いてアジアの学生たちと交流を深めています。

大学生たちの団体名は、「全九州学生文化会議」。メンバーは80名ほどです。



遊園敷地での集団自決で亡くなった御堂を鎮める「白玉の塔」の前にて

日本再発見

# 『今上天皇の大御心』

本編第34弾 全6回  
平成19年12月16日～平成19年1月19日

来年は平成の御代になって20年を迎えます。この間、様々な分野において日進月歩の進化や1.1化、変化に富む豊かで便利な時代が築かれてきました。その一方で、国外ではベルリンの墻崩壊、ソビエト共産主義国家の終結、東冷戦の終結、テロ戦争の勃発など真の平相とは程遠く、また国内ではバブルの崩壊、平成不況、阪神淡路大震災や新潟県中越地震、台風などの自然災害やオウムサリン事件などの凶悪な犯罪事件が起きるなど、多難な歳月でもありました。

この中で、皇室は「常に国民と苦楽を共に」されて参りました。特に自然災害や凶悪な犯罪、拉致事件で被害にあつた方々には深く心を寄せられ、また先の大地震で亡くなった英霊の方々、遺族の方々とは常に心とめめれ、国際社会では各国との友好親善に尽くされて参りました。本シリーズでは約20年に及ぶ天皇陛下の御事跡をご紹介しつつ、皇室を中心とするわが国の国柄の有難さについて番組を展開して参りたいと思つています。



福岡県西方沖地震のお見舞いに玄界島をご訪問された天皇皇后陛下

日本再発見

# 『福田政権下の危険な政治課題』

本編第35弾 全6回  
平成20年1月27日～平成20年3月2日

「戦後レジームからの脱却」を掲げ、官僚制の克服に向けて着々と成果を取っていた安倍内閣の後に誕生した福田内閣は、安倍前首相の改革とはおよそ反対の「戦後レジームの固定化」とも言うべきものでした。このシリーズでは、福田内閣で再燃した人権擁護法案や外国人地方参政権付与の問題をはじめ、更には地方自治基本条例、深刻な学力低下に対する教育施策、また十年で驚くべき躍進を遂げている中国の実情や学生の台湾訪問による報告を紹介しながら、わが国の直面する問題や将来への課題について討論しました。改めて一國の宰相の信念・哲学、戦略、構想力、指導力に国家の浮沈があることを感じさせられた内容でした。



胡锦涛・中国国家主席を首相官邸に迎える福田首相

日本再発見

# 『台湾に慰霊の真心を尽して』

本編第36弾 全6回  
平成20年3月9日～平成20年4月13日

わが国・日本と台湾は共通項が沢山あります。①島国であること、②敗戦国であること、③戦後長期に亘って異民族支配(占領)されたこと、④法を押し付けられたこと、⑤敗戦前持っていた反国家分子の定着を許してしまつたこと。台湾の李登輝前総統の卓越していることは、50年間の日本統治時代にはっきりと形づくられた台湾深部の親日度・愛日度にスポットをあて発言の機会を与え、市民権を与えたこと、大に認めます。特に、大に驚かされたことでは、それが台湾の中国の「ニッポン」は再び暴動を開始するに至つたわけですが、李登輝氏も優れているものひとつの点もあると思つています。大東亜戦争の戦死者(日本側)の名誉回復に全力を傾注して下さったことです。本編・日本では逆に、旧軍の戦死者には冷たいものにもなるような形で多くの為政者は冷たいのです。しかし、この李登輝氏もかつての日本統治の中で育つた人格であるゆえ、私たちは台湾に行くことのできるわが国に出会うことができると思つています。



白田文化経済協会の方々との魂の交流の昼食会

日本再発見

# 『環境問題への疑問』

本編第37弾 全6回  
平成20年4月20日～平成20年5月25日

環境に配慮することは誰も反対しない、誰にも反対できない「命題」です。したがって環境問題で一目見ただけに見えなくとも深く考えもしないで、又吟味もせずに納得してしまう傾向があります。特にテレビ、新聞などのマスコミが事実を誇張したり、伝えるべき情報をきちんと報じていない場合は、マスコミの誘導する方向を盲信してしまい、真実を見失うという危険があります。

しかし、環境問題には、実はよく見ると、ウソやごまかしが沢山あるというのが現実です。今回のシリーズではこれらの問題点を議論してまいります。



環境問題のトリックを解剖し、安易なリサイクル推進運動に警鐘を鳴らす同書

日本再発見

# 『新教育基本法のめざすもの』

本編第38弾 全6回  
平成20年6月1日～平成20年7月6日

教育基本法は、我が国の教育に関する最も根本的な法律です。教育に関する様々な法令の運用や解釈の基準となる性格を持っています。教育の「憲法」とも言われています。この教育基本法が、昭和22年3月31日の施行以来実に59年ぶりに全面的に改正され、平成18年12月22日に公布・施行されました。現在は、この新教育基本法のもとに関係法が順次改正され、学校教育や学習指導要領が大きく変わつて参ります。「新教育基本法のめざすもの」と題したこのシリーズでは、教育の再生によって国家の再生を果たしてきたイギリスやアメリカの例も紹介しながら、新教育基本法の異議や我が国の教育の方向性について考えていきたいと思つています。



2,500名が集まった日比谷公会堂での「教育基本法改正を求める中央国民大会」

日本再発見

# 『となりの国、中華人民共和国をよく知ろう』

本編第39弾 全6回  
平成20年7月13日～平成20年8月24日

中国については、4年前のサッカーアジア大会における中国の反日行動や、今年に入り、中国製毒ギョーザ事件の中国の対応、チベットへの抗議に対するチベット人殺害、聖火リレー抗議への中国の対応、そして四川大地震での中国の実態などを、テレビの映像で見て、日本とはかなり違つた点などの認識が少しづつ、日本人の間に広がっているのも事実です。又、一方で、日本人は先の戦争の間中国で働いていたことなどの語つた歴史問題は依然として正されず、この懸念意識は中国問題での日本の行き過ぎた歩捗につながり、日本の国益を大きく損ねています。

そこで、今回は、我々の中国を見る際の一つの材料として、毛沢東率いる中国共産党が結党以来何をしてきたのかをとりあげたいと思つています。



「東トルキスタン」の旗を掲げてフザン市市内をデモ行進する在米ウイグル人

日本再発見

# 『日本人と中国人はこれほど違う』

本編第40弾 全6回  
平成20年8月31日～平成20年10月5日

開会前は賛否両論が巻き起こつた北京オリンピックは、中国の実情を世界中にハッキリと明らかにして救いました。大量のメダル獲得という光と、情報の隠蔽という影、その両面が一度強烈による朝野政治がもたらすものであることが改めて思い知らされました。そしてオリンピック世界一という結果は、中国人に大陸の驕りを生みだしたのか、そして世界に大迷惑を撒き散らすのか。それとも北京五輪決定による期待した中国の民主化、世界との強固が果たして進むのか。

それは、ひとえに、日本人を含めた世界が、中国に対して今後如何なる対応を取るのにかに係っています。72年前のベルリン五輪開会がナチス・ヒトラーの強を世に大教訓と反省をどう活かすかに係っています。中国と正しく付き合うためには、まず中国人を正しく知ることが始めるしかありません。



中国人犯罪者と真向かってきた。元刑事・北京語の通訳捜査官が語る中国人の正体

日本再発見

# 『今上天皇の御脚をお慰びして』

本編第41弾 全5回  
平成20年10月12日～平成20年11月9日

今年8月は平成の御代になって20年の節目の年です。この間、様々な分野において変化に富む豊かで便利な時代が築かれてきました。その一方で、国外では東西冷戦の終結、テロ戦争の勃発など真の平相とは程遠く、また国内ではバブル崩壊、平成不況やたゞ罪重なる大地震等の自然災害や地下鉄サリン事件などの凶悪犯罪事件が起きるなど、多難な歳月でもありました。この中で、皇室は「常に国民と苦楽を共に」されて参りました。特に自然災害や凶悪な犯罪、拉致事件で被害にあつた方々には深く心を寄せられ、また先の大地震で亡くなった英霊の方々、遺族の方々とは常に心とめめれ、国際社会では各国との友好親善に尽くされて参りました。本シリーズでは、「全日本学生文化会議」の活動を通じ、約20年に及ぶ天皇陛下の御事跡をご紹介しつつ、皇室を中心とするわが国の国柄の有難さについてご紹介してまいりたいと思つています。



サイレンに慰霊御訪訪され、ハンサウグリップで黙祷を捧げられた天皇皇后陛下

日本再発見

# 『日韓の歴史認識を考える』

本編第42弾 全6回  
平成20年11月23日～平成20年12月28日

韓国に誕生した保守派のイ・ミョンバク大統領は、当選後の外国人記者団との会見で、対日問題について「日韓関係と反省を求めない」と宣言したことが、文部科学省が、竹島は日本固有の領土である、と学習指導要領解説書に明記する方針が報道されると、途端に、これまでの大統領と同じく日本に抗議し、それを受けて日本側も譲歩してしまつた。又、保守派からも期待されて誕生した麻生太郎首相も何のためらぬ、無く村山首相談話を踏襲すると表明し、そのあり方、つまり先日は事実をのべたにすぎない旧海軍少将の論文が政府の方針に反するとして退任されました。このようになるのは結構、わかれわかれ日本人の日韓の歴史の理解の実態が原因です。そこで、今回は日本人は日韓の歴史をどう認識すべきなのか、を考えたいと思つています。



大正13年に日本が朝鮮に設立した京城帝国大学

**日本再発見**

## 『日本は侵略国家であったのか』

本編第43弾 全6回  
平成21年1月11日～平成21年2月15日

昨年11月、当時の田母神航空幕僚長が民間の懸賞論文に応募した論文「日本は侵略国家であったのか」が村山談話室を踏襲するとした原生内閣の主張に反発して更迭されました。田母神航空幕僚長の主張は、国民の安全を命がけする使命を自ら自衛隊員には愛国心がなければその責を負えないと、そのためには我が先人達の歴史を正しく知る必要がある、日本の近代史を直視すれば、我が国が侵略国家であるとの決め付けは間違である。歴史を失った民族は衰退する、というものでした。大東東戦争終結後、60数年を経過し、社会を動かす役割を担うのは、戦前の日本を断罪する自虐史観の歴史教育、マスコミ報道などに異なれば、その責を負うことが日本国の安全保障、日中・日韓外交に悪影響を与えています。今こそ、正しい日本の近現代史を取り戻さないと、日本は歴史を失い衰退するしかありません。



「日本は侵略国家ではない」との田母神航空幕僚長の発言に国民の熱い支持

**日本再発見**

## 『日台魂の絆・十年』

本編第44弾 全6回  
平成21年2月22日～平成21年3月29日

平成11年に始まった「日華(台)親善友好懇話会訪問団」は昨年まで10回目を迎えました。「英霊顕彰なくして誠の家(族)兄弟交流なく、その絆を広がりなくして日台両国の国交回復なし」をモットーに、昨年まで10回に亘って親善友好懇話会訪問団が行われました。その間、訪問団の参加者は従へ261人を救え、大戦訪問団を解放のできた方々1504人を救えました。先の大戦で日本人として亡くなった3万3千名の方々に感謝と追悼の魂を捧げることが、台湾の方々との心からの信頼関係を築き、魂交流に繋がっています。

格言にも「十年俤大なり、二十年畏ふべし、三十年にして歴史なり」とありまうように、この10年間の足跡には数々の成果が挙がっています。台湾訪問団の様々な体験を通して生まれた夢を踏まえ、日本と連帯共同体である台湾との今後の関係についてご紹介します。



「英雄顕彰会」と「臺安故郷」の慰霊堂の前に、毎年行われる「原台湾人元日本兵軍人軍属戦災者大慰霊祭」

**日本再発見**


## 『私たちの領土は私たちが守ろう』

本編第45弾 全6回  
平成21年4月5日～平成21年5月10日

領土は国家成立のための必須条件の一つです。領土を持たない民族の悲惨さはバレンスナ人、クルド人、ロメ人などを例に挙げれば一目瞭然である。しかし、現在の日本人には自ら領土の有り難さを感じていない。領土は失ってしまっからその価値に気づいても手遅れです。

日本以外では、領土は死活問題との認識が国民の常識であり、イザとならば戦争を訴えてでも守っています。又、最近では中国、インドなどの台頭により資源力競争争奪戦が熾烈さを増す中、領土問題の私たちが世代のみならず子孫にも及ぶ課題となっています。

今回、日本青年会議所が領土問題100人署名運動を始めています。あらためて日本の領土問題を考えてみたいと思います。




僅か50kmの距離で韓国と対峙する、対馬の北緯の航空自衛隊海島分屯基地

**日本再発見**

## 『国の安全・食の安全・身の安全』

本編第46弾 全6回  
平成21年5月17日～平成21年6月21日

「安全・安心は私たちが幸福な生活を営む上で大変重要な要素です。皆がわが国は、治安が世界で最も良く、地域共同体の結びつきが強く、安心して暮らせる社会でありました。しかし、世の中の進展に伴って、政治、経済、食料や人の交流が活発化、グローバル化していくことで、課題も明らかになって参りました。数年前発生したサームS(急性肺炎)や現在注意意識が喚起されている新型インフルエンザ問題、さらには昨年起こった金融不況など、私たちの「安全・安心」が世界の規模で、また国際社会の動向にまで左右されるようになってきました。当シリーズでは、国の安全、食糧問題あるいは「パンデミック」を引き起こすとも言われている新型インフルエンザの問題など、私たちの身近な「安全・安心」に関わる問題を取り上げていきたいと思います。」



新型インフルエンザ対策ハンドブック

感染すれば致死率が高い新型インフルエンザへの警告と対策の書

**日本再発見**

## 『北朝鮮の核兵器にいかに対抗するか』

本編第47弾 全6回  
平成21年6月28日～平成21年8月2日

去る5月25日、北朝鮮は2回目の核実験を実施しました。これまでの、世界による北朝鮮の核武装に対する阻止の圧力が失敗したことになりました。これでは我が国の周囲の国がすべて核兵器保有国となり、状況の固定化が危ぶまられました。

戦後の日本はアメリカに追随してれば石油を出さずに経済的繁栄を謳歌できた。しかし、ソ連崩壊後の世界は、ある意味で弱肉強食の時代です。アメリカもかつての世界最強の経済力と軍事大国を誇ることができなくなり不透明になっており、今や中国の経済と軍事力はこれまでのようには無視できない事態になっています。つまり、今の日本は幕末と同じ状況です。欧米の代わり、反日国として一党独裁の中国と北朝鮮が我々を圧迫しているのです。

この先、如何にすれば、日本は国家として再生し、繁栄を維持し、没落から免れることができるのかを議論していきます。



北朝鮮が放射したテポドン2号(平成21年4月5日)


**日本再発見**

## 『日韓併合100年を考える』

本編第48弾 全6回  
平成21年8月9日～平成21年9月27日

来年は明治43年(1910)に日本が韓国を併合してから丁度100年にあたります。民主党的鳩山由紀夫氏は6月に代表就任して間もなく韓国を訪問し、「民主党が政権をとれば日韓併合100年に関連して適切なメッセージを出すつもり」と非常に気掛かりな発言をしています。またNHKが韓国を訪問し、韓国の学者に「朝鮮半島植民地時代の不当性を証明できる資料はどんなものがあるか...」と尋ねたそうです。さらに、国内にも朝鮮半島植民地時代を反省し謝罪しろと主張する学者や団体が新たな活動をしています。

日韓の過去の清算は昭和40年(1965)年の日韓基本条約で済んでいます。韓国は歴史問題をする毎に蒸し返し、自らに都合の良いように歴史事実を歪曲して、日本人に対して韓国の歴史解釈を押し付けてきます。彼らの主張に譲歩することは、わが先人に対する現代の日本人の背信行為です。日韓併合100年を前に、日韓併合のありのままを検証していきます。



朝鮮総督府が作成した日本語とハングル語を併記した教科書。日本は学校を設立し、ハングル語を教えた。

**日本再発見**

## 『日韓歴史問題の争点』

本編第49弾 全6回  
平成21年10月18日～平成21年11月22日

歴史認識とは国によって異なるものであり、双方がお互いに認め合えないという性質のもので、例えば、アメリカの初代大統領ジョージ・ワシントンにはアメリカから見れば独立戦争の英雄だが、イギリスから見れば反乱軍の首領です。同一の歴史の出来事でも双方で見方が異なるのです。そしてこの違いを双方が認め合うことを前提とし、国家の歴史認識の対立はなくなりません。一方が他方に譲歩することで決着つかないのです。

日韓関係の対立は殆どが歴史認識の違いに原因があるといっても過言ではありません。日本の立場を主張すればそれは韓国が激しく対立し、韓国の主張にも日本の立場は譲れません。日韓の歴史認識の対立の原因は何なのか、その背景に焦点を当て、日韓歴史問題を議論したいと思います。



日韓併合時代の朝鮮近代化、ソウル・南大門通り(昭和11年)

**日本再発見**

## 『心に留めたい日本の歴史・日本人①』

本編第50弾 全4回  
平成21年11月9日～平成22年1月17日

我が国の歴史について人々がその認識を形成するのは、普通、学校教育であったりテレビ、映画、新聞等のマスメディアによってです。

現在の学校教育の歴史教科書が自虐史観の影響下にあることは、「新しい歴史教科書をつくる会」の活動により知られるようになってきましたが、自虐史観の歴史教科書ばかりではありません。NHKはじめ民放各局も日本の過去の歴史について、こさらに否定的側面を強調し一方的立場からの意見を紹介する番組を放送しています。そのいい実例が今年の4月にNHKが放送した「JAPANデビュー」です。悪貨といってもいいほどの番組でした。

どの国の歴史にも「光」と「影」があります。光だけを強調しても、影だけを暴いても、歴史は見えてきません。歴史は民族の自画像でもあります。歴史の出来事あるいは歴史上の日本人を通じて日本の自画像に辿りたいと思います。




米国のボーツマスで日韓講和会議(明治38年8月14日)。手前が日本代表団、向かい側がロシア代表団

**日本再発見**

## 『心に留めたい日本の歴史・日本人②』

本編第51弾 全2回  
平成22年1月24日～平成22年1月31日

他国に比べてわが国は、天然の災害である四海の恵恩により、建国以来平和な時代を長く享受してきました。その中で昇進する危機は、鎌倉時代の元寇と弱肉強食の時代であった幕末以降の近代の2回を経験しました。特に、産業革命の力を背景にアジア・アフリカ諸国を植民地にし、栄華を極めていた西洋列強や、9世紀以降東進を続け世界最大の版図を築き、樺太・千島列島、満州と東進を始めたロシアの存在は、わが国への存在に影響するものでした。まだ国際連盟や国際連合(国連)の強い力が支える時代において、国土と国民の生命、国家の生存権を守るためのわが国の父祖の努力は、事苦に尽し難いものがありました。個人の人生がそうであるように、国家の歩みにおいても成功もあれば失敗もあり、また喜びもあれば悲しみもあります。個人が出生以来の歴史を背負って生きているように、国家も建国以来の歴史を有しており、その歴史を大事にながらそれを担って、いざとなれば後世に生きる国民の務めでもあります。もしこの戦いに敗ればわが国は地上から消え失せていたかもしれないと言われる日露戦争において、世界が驚嘆するほどの勇敢な戦いによって海軍の勝利を得ることができました。



日露開戦の5年前(1899年)にオランダのハーグで開かれた海軍軍縮条約に調印する様子。わが国は条約を忠実に守り、捕虜を帰還した。

### 日本再発見 『永住外国人地方参政権は百害あって一利なし』

本編第52弾 全4回  
平成22年2月7日～平成22年2月28日

戦後の日本は、国家であることを止め、経済活動をする人間連の集まる場所過ぎない、とつた人からみましたが、その究極の姿が、現在、民主参政権が成立を目指す、永住外国人入籍権付与法案です。敗戦後、戦前の日本はすべてでアジアを侵略した悪い国であるとの刷り込みが、教育、出版、マスメディアに蔓延し、その毒害を取り除くことが出来ないうまにきました。それでも、戦前の真実を知る世代が目を見詰めていた間は、それなりなことが通用してきました。しかし、戦後生まれの日本人歴史観に洗滌され、戦前が社会の重要な地帯を占め、保守から左翼に政権が移った途端に、その影響が一挙に現れました。「日本は日本人の所有だけという考えは、思い上がりもなはだしい」「日本列島は日本人だけが住むものではない」等、とてもまともな政治家とは思えない発言をする人間が、今、わが国の総理大臣なのです。この二名の総理大臣の内閣が成立を期している永住外国人入籍権問題を議論してまいります。



外国人入籍権反対の国民大会に全朝から1万名が集結  
(平成22年4月11日 日本共産党)

### 日本再発見 『英霊顕彰と日台魂の絆』

本編第53弾 全6回  
平成22年3月7日～平成22年4月11日

平成11年に始まった「日華(台)親善友好慰霊訪問団」は昨年で11回目を迎えました。「英霊顕彰及び誠の家(兄弟)交流なく、その絆を広げなくて日台両国の国家回復なし」をモットーに、昨年度で11回目に互って親善友好慰霊訪問が行われました。先の大戦で日本人として亡くなった3万3千余柱の方々へ感謝と追悼の誠を捧げることが、台湾の方々との心からの信頼関係を築き、魂の交流に繋がっています。昨年は、訪問団に初めて外国人の方が参加されました。英国より奇蹟な権民地支配を受けたスリランカ人のウイラマ・スレンドラー・サーニさんは、自身の経験から「日本の統治を受けた台湾人が日本人に感謝しているはずはない」との信念から慰霊訪問団に参加されました。しかし、僅か2日目に先行して台湾人が日本人に感謝している姿を目の当たりにし、日本が台湾で行った統治に偉大な考え方を新たにされました。



第11次訪問団に初めて外国人が参加。英国の権民地支配を受けたスリランカ出身のウイラマ・スレンドラー・サーニ氏(右)

### 日本再発見 『日本に移民は必要か』

本編第54弾 全6回  
平成22年4月18日～平成22年5月23日

日本は経済成長のために外国人労働者に依存しなかった唯一の先進国と言われています。一方、日本と同じ敗戦の焼け野原から立ち上がったドイツや、イギリス、フランス、イタリアなどの国は戦後の経済成長を外国人労働者に依存しました。そして、現在それらの国は、外国人労働者あるいは移民との民族間摩擦や文化摩擦が大きな問題となっています。ところが、実は現在、我が国にも平成20年末現在で約220万人もの外国人居住者がいます。我が国でも外国人が多数居住地域では日本人との間に摩擦が生じています。避けては通れない課題である、日本の外国人労働者問題、移民問題について考えたいと思います。



世界中に移民している中国人の激増・不誠実・無責任な行動に各国で被害やトラブルが続出

### 日本再発見 『古高取』と『京陶工』

本編第55弾 全5回  
平成22年5月30日～平成22年6月27日

今から400年まえ、戦乱もようやく終息を迎えた日本は銀の産出地として、かつてない経済的繁栄と文化的隆盛を極めていました。当時、織田信長の影響もあって茶の武將たちにとって必須の飲物でした。その文化的影響は、この福陶にも及び、また茶陶の重要性を理解していた初代徳川幕府は現在の京都市福智山の麓に宅陶窯・内蔵窯を築きました。従来、この地で焼かれた茶陶は文祿・慶長の折、日本に連れてこれられた朝鮮人陶工によるものとしていました。しかし、近年の研究成果から朝鮮・陶工によるものとする説には疑問があり、むしろ、多くの多くは京都を本拠地として国内を自由に往来していた陶工連によるものとする説が有力になってきました。長年かかっていた宅陶窯、内蔵窯の発掘調査はその説をますます有力なものにして、更に、棟瓦など内蔵窯と京陶の陶工との関わりを検証していきます。



京方の内蔵窯で生まれた高取焼・斑輪透文輪花鉢

### 日本再発見 『日本の子供たちの未来を守るために』

本編第56弾 全6回  
平成22年7月11日～平成22年8月15日

平成21年9月に「政権交代」という大きな期待の下に誕生した民主党政権。しかし、数ヶ月経たず、「政治とカネ」の問題が発覚し、国民の失望と怒りを買いました。また、「子供手当」や普天間基地問題、宮崎の自衛隊問題など、統治能力が欠如した政権であることも暴露されました。更には、マニフェストにも掲載しなかった「外国人参政権」や「夫婦別姓」を先の通常国会に提出しようとする動きがあり、全国の都府県知事選挙や市町村議会も反対の姿勢を示しました。国家解体や憲法破壊の法案といわれ、危険性が極大化される法案を成立しようとする民主党政権の姿勢は、いつでも政権交代と呼べるものではありません。この状況を受けて、普選の準備と母体立ち上がり、平成22年2月1日に「日本の子供の未来を守る会」が結成されました。前衆議院議員の西川京子先生、鬼本淑郎議員を特別ゲストに加え、臨時国会後に国会提出の動きのある「外国人参政権」「夫婦別姓」の問題点や、学校現場の教育の実情を「日本の子供の未来を守る会」の皆さんにもお話を伺ってまいりたいと思っております。



日本の将来に危機を感じて立ち上がった「日本の子供たちの未来を守る会」の街頭演説活動(渋谷/八公広公園)

### 日本再発見 『民主党の危険な政策、法案』

本編第57弾 全6回  
平成22年8月22日～平成22年9月26日

民主党政権獲得前から政権担当能力に疑問が投げかけられていたましたが、それを容赦するが、未だ党の綱領を決める事が出発点にしていることです。安全保障政策なども幾つかの野党政策で党内の意見を集約できないのです。選挙目当てのご都合政策と都合される所です。その結果が鳩山政権の普天間問題、政治とカネ問題で10ヶ月で崩壊という結果でした。特に普天間問題での鳩山首相の「字は字ふど御座り分かった」には驚愕と怒りしかありません。又、歴史認識が東京裁判史観そのものであり中国・韓国との歴史認識に従っていないこと、国家観が未だで大陸だけであることは以前から指摘されてきました。それが外国人地方参政権、選択的夫婦別姓の推進などになって表れています。すでに菅直人首相は先月10日に総理談話を発表しましたが、談話を出すべきではないと批判された通りの内容であり、極めて大きな問題を含んでいます。菅談話の歴史認識の誤りについて議論してまいります。



普天間基地問題で迷走し、日米同盟を不安定化し、国民からの支持も失った鳩山首相の退陣を報じる新聞

### 日本再発見 『民主党の危険な政策、法案(続篇)』

本編第58弾 全6回  
平成22年10月3日～平成22年11月7日

民主党政権選挙の最中の9月7日に沖縄県尖閣諸島の海域で違法漁業をしていた中国漁船が、取り締まり中の我が国の巡視船に対してむざむざ衝突し公務員執行妨害で逮捕されるという、重大な領海侵犯事件を起こしました。これに対して日本政府は翌日に領海侵犯に基づいて罰金を科せると発表しました。国民は日本政府は当然処罰をするものと期待しました。一方、この日本側の当然の措置に対して、中国は漁船衝突の事実の捏造発表、非礼な在中國大使館の呼び出し、反日アモの煽動、日中交流の延期、中国観光客1万人の訪日中止などの外交攻勢を遂行しました。そして、要する責任をたて、レアアース対日輸出禁止と踏み切り、ついに、中国に駐在する日本人員を立入禁止の軍管地域域に閉じ込めようとする強硬措置に出ました。



船長釈放は那覇地検の判断だと仙官房長官は発言、外交交渉に及び難の政権に国民の不信は高まった

### 「スタジオ日本 日曜討論番組を支える会」からのご案内 『日曜討論』に皆様のご出演を!

— 国益にかない、真実を伝える番組の制作者・出演者を募集中 —

インターネット生放送番組「スタジオ日本 日曜討論」は、平成15年10月の放送開始以来今日まで1回も欠かされず、毎週日曜日午前10時から2時間半の番組を実施してきました。その回数は平成24年6月末現在で456回となりました。番組でこれまで取り上げたテーマは、皇室、歴史、教育、防衛、憲法、領土領海、台湾・中国・韓国、男女共同参画、家庭、子育てなど幅広い分野に亘っております。番組にはそれぞれ専門の方や関係者、有志の方々にご出演いただき、有意義な議論を展開してきました。この度、さらなる放送内容の充実を図っていくために、「日曜討論」番組の企画や出演者を幅広く募集することに致しました。「国益を守り、真実を語り、真心を尽くす」という私どもの番組の趣旨にご賛同戴けます方は、是非ご応募くださいと存じます。簡単な要項は右記のとおりです。

#### 『日曜討論』番組の企画・出演者の募集

- \* 趣 旨 わが国の歴史、文化、伝統を大切にし、国や地域、家庭を愛し、国家・国民を大事にする内容であれば結構です
- \* 番 組 毎週日曜日 10時～12時30分 [2時間30分] 毎回生番組による放送です
- \* シリーズ 1シリーズは6回の番組で構成されています 6週続けての番組となります
- \* 出演者 出演者は1回につき2～4人 (司会進行役は、支える会より1名出席します)
- \* 出演料等 無償 (ボランティア協力です)

スタジオ日本 日曜討論番組を支える会 事務局  
〒810-0001  
福岡市中央区天神 1-3-38 天神 121 ビル 13 階  
TEL 092(721)0101 FAX 092(725)3190  
担当 茅野 (かやの)・高山 (こうやま)



日本再発見

# 『中国は日本を敵と見ている事を忘れてはならない』

## 本篇第59弾 全7回

平成22年11月14日～平成22年12月26日

中国は平成4年(1992)に領海法を制定し、尖閣諸島を自国領土と明記しました。つまり、中国は日本の領土を奪うことを世界に宣言したのです。これにより中国は日本の敵であることが明確となりました。

その後、江沢民は、平成6年(1994)9月6日付け人民日報に《愛国主義教育実施要綱》を掲載し、それまでの「抗日」教育を「反日」教育へと転換しました。日本と



22年7月1日に「中国国防動員法」が施行。日本に住む中国人の約61万人が対象。我が国の安全が脅かされる危機にある

勇敢に戦った中国を称賛する事から、日本に憎悪を抱かせる教育に変えたのです。その反日教育もすでに15年間余りに及んでおり、特に現在20歳以下の若者はその影響を強く受けていると見なければなりません。先般の沖縄県尖閣諸島領海における中国漁船領海侵犯事件の背景にはそれらの事実があることを忘れては日本は過ちを冒します。残念ながら、先日の尖閣ビデオ流出問題でも海上保安官の刑事責任の有無を問題にするばかりで、事の本質である、中国が日本の領土を奪おうとしている事は無視しています。中国がいくら言葉では耳障りのいいことを言っている、その裏には、日本からものを奪うことを国家の方針とし、それに基づいて行動していることを常に認識しなければなりません。

〈シリーズ〉

- |                                      |                          |               |
|--------------------------------------|--------------------------|---------------|
| <b>第1回</b>                           | <b>日本の森が狙われている</b>       | 平成22年11月14日放送 |
| 小菅玄三郎／吉田重治・小川英造／小野実里／小田川哲郎・作本俊一・岩田賢二 |                          |               |
| <b>第2回</b>                           | <b>水の争奪が始まる</b>          | 平成22年11月21日放送 |
| 香月洋一／古賀毅志・川口武壽／小野実里／小田川哲郎・作本俊一       |                          |               |
| <b>第3回</b>                           | <b>日本の土地・森林・水をいかに守るか</b> | 平成22年11月28日放送 |
| 香月洋一／安倍輝彦・日隈精二／小野実里／小田川哲郎・作本俊一       |                          |               |
| <b>第4回</b>                           | <b>中国国防動員法の脅威を認識せよ</b>   | 平成22年12月5日放送  |
| 香月洋一／木村秀人・小川英造／小野実里／小田川哲郎・作本俊一       |                          |               |
| <b>第5回</b>                           | <b>中国人の流入を制限せよ</b>       | 平成22年12月12日放送 |
| 小菅玄三郎／藤井守人・本山貴春／小野実里／小田川哲郎・作本俊一      |                          |               |
| <b>第6回</b>                           | <b>中国人観光客への依存の危険性</b>    | 平成22年12月19日放送 |
| 香月洋一／川口武壽・稲倉萌／小野実里／小田川哲郎・作本俊一        |                          |               |
| <b>第7回</b>                           | <b>これが中国のやり方だ</b>        | 平成22年12月26日放送 |
| 香月洋一／古賀毅志・行實正明／小野実里／小田川哲郎・作本俊一       |                          |               |

※ 出演者は コメンテーター／ゲスト／パーソナリティ／アシスタント の順で表記した。 ※ 敬称略。

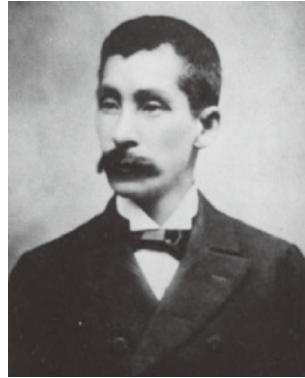
日本再発見

## 『今思いおこす日本人の気概』

本篇第60弾 全6回

平成23年1月9日～平成23年2月13日

米ソ冷戦が終結した後の世界について、宗教対立、民族対立、国家間対立が激化すると予想されましたが、まさにその通りとなっています。人口が多く国土も広い新興国の台頭も世界に大きなインパクトを与えていますが、なかでも中国はかつての帝国主義を彷彿とさせる政策を進めています。この20年間の驚異的な経済発展を背景に、軍備を増強し、世界の資源を猛烈に獲得し、領土拡張の意思を明確化し、世界との強調よりは自国の利益を第一としています。さらに、その国家運営は



近代日本最強の外交官と謳われている小村寿太郎

一党独裁体制、言論統制により成り立っており、国内的には経済格差の拡大、人権抑圧、環境破壊、ウイグル・チベット弾圧など、国家の安定を破壊しかねない深刻な問題も抱えております。それら国内の不満を逸らすために外交問題を利用する可能性も常に指摘されています。

日本に対しては、東シナ海のガス田で強引な開発を続け、昨年9月の尖閣領海侵犯事件では、平成4年(1992)に決定した領土簞奪の意図を何ら隠すことなく日本国民に公然と示しました。いわば日本の敵として行動しています。

隣国中国のこのような帝国主義的膨張政策のとばっちりを受けないための方策が必要です。今こそ我々は我が先人たちがいかに国を守ってきたのか、その気概を思いおこすべきではないでしょうか。

〈シリーズ〉

- |                                     |                                    |              |
|-------------------------------------|------------------------------------|--------------|
| <b>第1回</b>                          | <b>日露戦争を戦った明治人の気概</b>              | 平成23年1月9日放送  |
| 香月洋一／木村秀人／小野実里／小田川哲郎・作本俊一           |                                    |              |
| <b>第2回</b>                          | <b>近代日本最強の外交官 小村寿太郎</b>            | 平成23年1月16日放送 |
| 小菅玄三郎／日隈精二・小川英造／小野実里／小田川哲郎・作本俊一     |                                    |              |
| <b>第3回</b>                          | <b>アメリカで日露戦争を言論で戦った日本人たち</b>       | 平成23年1月23日放送 |
| 小菅玄三郎／藤井守人・本山貴春／小野実里／小田川哲郎・作本俊一     |                                    |              |
| <b>第4回</b>                          | <b>日露戦争の戦費調達を成功させた高橋是清の気概</b>      | 平成23年1月30日放送 |
| 香月洋一／川口武壽・行實正明・岩瀬晃淑／小野実里／小田川哲郎・作本俊一 |                                    |              |
| <b>第5回</b>                          | <b>日露戦争でアメリカに於いて論陣を張った民間の日本人たち</b> | 平成23年2月6日放送  |
| 香月洋一／木村秀人／小野実里／小田川哲郎・作本俊一           |                                    |              |
| <b>第6回</b>                          | <b>日露開戦の世論にみる明治人の気概</b>            | 平成23年2月13日放送 |
| 香月洋一／日隈精二・小川英造／中実柚菜・小野実里／小田川哲郎・作本俊一 |                                    |              |

※ 出演者は コメンテーター／ゲスト／パーソナリティ／アシスタント の順で表記した。 ※ 敬称略。

日本再発見

## 『歴史の争点』

本篇第61弾 全6回

平成23年2月20日～平成23年3月27日

現在の世界を動かしているのは、各国の国益追求の意思です。ソ連が崩壊して以降、自由主義あるいは共産主義というイデオロギーは無くなり、代って自国の国益のみを第一とする、かつての帝国主義時代に戻ったかのようです。各国の利害の対立が容赦なく現れているのです。

日本も周辺の中国、韓国、北朝鮮、ロシアと対立を余儀なくされていますが、その際、常に歴史問題

が絡んでいます。そして、日本はその歴史問題への対処の拙さから常に守勢に立たされています。北方領土、中国侵略問題、南京事件、尖閣問題、日韓併合、竹島問題、強制連行、慰安婦問題などです。戦後65年を経ても未だに解決を見ていません。

今の60代以下の世代は自虐史観、東京裁判史観で教育を受けましたが、まだ戦前を知っている親や祖父母から戦前の真実を知る機会があり、歴史の真実の一端に触れることも出来ましたが、その戦後世代も今や定年で現役を退き、その子供たちが社会を担う世代となってきました。歴史を、いわば、書物だけで知った世代が社会の中心になろうとしています。そして、その若い世代に、如何に真実の歴史を伝えるかが課題となっています。その結果、学校での歴史教育の役割が以前より大きくなっています。しかし現実には歴史教科書の殆んどが自虐史観、東京裁判史観に汚染されており、学校教育以外の場所で歴史の伝達がなされることが期待されます。



東京慰霊堂。関東大震災の身元不明の遺骨を納められている

(シリーズ)

- |     |                                     |              |
|-----|-------------------------------------|--------------|
| 第1回 | 関東大震災 朝鮮人虐殺の真実とは①                   | 平成23年2月20日放送 |
|     | 香月洋一／安倍輝彦／中実柚菜／小田川哲郎・作本俊一           |              |
| 第2回 | 関東大震災 朝鮮人虐殺の真実とは②                   | 平成23年2月27日放送 |
|     | 香月洋一／川口武壽／行實正明／中実柚菜／小田川哲郎・作本俊一・小野実里 |              |
| 第3回 | 関東大震災 朝鮮人虐殺の真実とは③                   | 平成23年3月6日放送  |
|     | 小菅玄三郎／藤井守人・香月洋一／中実柚菜／小田川哲郎・作本俊一     |              |
| 第4回 | 中国人のウソは孔子公認、学校推奨                    | 平成23年3月13日放送 |
|     | 小菅玄三郎／日隈精二・小川英造／小野実里／小田川哲郎・作本俊一     |              |
| 第5回 | 中国では歴史は政治の都合で改竄                     | 平成23年3月20日放送 |
|     | 香月洋一／奈田明憲／中実柚菜／小田川哲郎・作本俊一           |              |
| 第6回 | 議員辞職すべき土肥隆一・民主党衆議院議員                | 平成23年3月27日放送 |
|     | 香月洋一／川口武壽／行實正明・岩瀬晃淑／中実柚菜／小田川哲郎・作本俊一 |              |

※ 出演者は コメンテーター／ゲスト／パーソナリティ／アシスタント の順で表記した。 ※ 敬称略。

日本再発見

## 『実録台湾—これが真実の姿』

本篇第62弾 全6回

平成23年4月3日～平成23年5月8日

先般の東日本大震災では、台湾から真っ先に救助隊の派遣、そして、民間も含めて130億円という莫大な義援金を提供していただいたことには、衷心より感謝申し上げます。この支援によって、わが国にとって最も大事な国はどこであるか、国民すべてが認識したと同時に、私たち訪問団がこれまで行ってきた台湾との交流の意義を、改めて感じさせられました。



高砂義勇隊戦没英霊記念碑(烏来)の前にて

平成11年に開始された「日華

(日台)親善友好慰霊訪問団」は昨年で12年目を迎えました。11月に行われた、第12次慰霊訪問団には、過去最多の46名の方々が参加されました。その中で、撮影担当としてシネマトグラフの又丸齊次さんが団員の身分で同行され、4泊5日の旅の一部始終を克明に収録して下さいました。取材する素材は同じであっても、恣意性、意図性を持った歪曲取材や印象操作、偏向編集によって、その内容は180度変わってしまいます。最近の悪い例では、平成21年4月5日に放送されたNHKのジャパンデビュー「アジアの一等国」が思い出されます。

私たちは、心ある台湾の皆様との平成11年以来の家族交流・兄弟交流の重みに賭け「百聞は一見に如かず」の諺に従い、あえて素材のままの映像を提供し、「実録台湾」をご覧いただきながら、その判断を視聴者の皆様にゆだね、日本と台湾の関係を考えて参りたいと思います。

〈シリーズ〉

- |            |  |              |
|------------|--|--------------|
| <b>第1回</b> | <b>第12次慰霊訪問団帰朝報告</b>                         | 平成23年4月3日放送  |
|            | 小菅亥三郎／梶栗勝敏・池田裕二／中実柚菜／小田川哲郎・作本俊一              |              |
| <b>第2回</b> | <b>台湾にこそあった美しい日本</b>                         | 平成23年4月10日放送 |
|            | 小菅亥三郎／黄楷荼／中実柚菜／小田川哲郎・作本俊一                    |              |
| <b>第3回</b> | <b>受け継がれる日本統治時代の教育</b>                       | 平成23年4月17日放送 |
|            | 小菅亥三郎／西山洋・黄楷荼／中実柚菜／小田川哲郎・作本俊一                |              |
| <b>第4回</b> | <b>私たちが目指すべき日台の関係</b>                        | 平成23年4月24日放送 |
|            | 小菅亥三郎／大橋昭仁・下田健一・下田純子・黄楷荼／小野実里／小田川哲郎・作本俊一     |              |
| <b>第5回</b> | <b>緊迫するアジア情勢と訪問団の使命</b>                      | 平成23年5月1日放送  |
|            | 小菅亥三郎／永田昌巳・黄楷荼／中実柚菜／小田川哲郎・作本俊一               |              |
| <b>第6回</b> | <b>台湾防衛は御英霊との約束</b>                          | 平成23年5月8日放送  |
|            | 小菅亥三郎／金澤明夫・木村秀人・田中道夫・古賀誠・黄楷荼／中実柚菜／小田川哲郎・作本俊一 |              |

※ 出演者は コメンテーター／ゲスト／パーソナリティ／アシスタント の順で表記した。 ※ 敬称略。

日本再発見

## 『沖縄集団自決最高裁判決は禍根を残す』

本篇第63弾 全6回

平成23年5月15日～平成23年6月26日

先日、いわゆる沖縄集団自決名誉棄損訴訟で、最高裁判所は被告の大江健三郎氏と岩波書店の勝訴確定の判決を出しました。これはウソを書いた本の出版を最高裁が容認するという極めて問題のある判決です。

沖縄本島に米軍が上陸する直前、昭和20年3月末に、沖縄県座間味島と渡嘉敷島で起こった集団自決について、昭和25年出版の「沖縄戦 鉄の暴風」が、集団自決は梅沢少佐と赤松大尉の命令だった、と事実と反する記述をし、この記述がそのまま他の著書に引用されて「沖縄集団自決は軍命令だった」とのウソが罷り通り、日本軍は悪いことをしたという日本悪者論に利用されて来ました。

ところが昭和48年に出版の本で、曾野綾子氏は自らの実地調査により、赤松大尉が自決命令を出した証拠は見つからなかった事、又、平成11年には集団自決の生き残り証人の宮城初枝氏の証言で梅沢少佐は自決命令を出していなかったことが判明し、沖縄集団自決軍命令説は虚偽であることが証明され、梅沢少佐と赤松大尉の冤罪は晴らされてきたかに思われました。しかし、ノーベル賞作家大江健三郎氏は以上の事実が判明した後も、「沖縄ノート」の軍命令説、梅沢少佐と赤松大尉をユダヤ人虐殺犯人のアイヒマンになぞらえた記述などを訂正することなく両氏の名誉を甚だしく棄損することを続けて来ました。今回、最高裁判所はノーベル賞作家の名声に遠慮したと受け取られかねない、事実を目をつむった判決を下しました。真実の究明を使命とする裁判所がこれほど明らかな事実を無視してノーベル賞作家という名前に配慮した判決を下したことはわが裁判史上に汚点を残すものです。



大江健三郎氏の  
『沖縄ノート』のウソ!

徹底した現地調査のもとに、  
訂正された：虚構の核心、を明らかにする。

WAC

徹底して現地調査を行い、「軍の命令がなかった」ことが明らかにされた書

(シリーズ)

- |     |                                 |              |
|-----|---------------------------------|--------------|
| 第1回 | 沖縄集団自決は軍命令ではない①                 | 平成23年5月15日放送 |
|     | 香月洋一／古賀毅志・川口武壽／小野実里／小田川哲郎・作本俊一  |              |
| 第2回 | 沖縄集団自決は軍命令ではない②                 | 平成23年5月22日放送 |
|     | 小菅亥三郎／木村秀人・奈田明憲／中実柚菜／小田川哲郎・作本俊一 |              |
| 第3回 | 最高裁判決は禍根を残す①                    | 平成23年5月29日放送 |
|     | 香月洋一／安倍輝彦・吉田重治／中実柚菜／小田川哲郎・作本俊一  |              |
| 第4回 | 最高裁判決は禍根を残す②                    | 平成23年6月12日放送 |
|     | 小菅亥三郎／日隈精二・小川英造／中実柚菜／なし         |              |
| 第5回 | 最高裁判決は禍根を残す③                    | 平成23年6月19日放送 |
|     | 香月洋一／川口武壽／中実柚菜／なし               |              |
| 第6回 | ノーベル賞作家大江健三郎の影響力                | 平成23年6月26日放送 |
|     | 香月洋一／吉田重治／中実柚菜／なし               |              |

\* 出演者は コメンテーター／ゲスト／パーソナリティ／アシスタント の順で表記した。 \* 敬称略。

日本再発見

## 『TPPは日本の国益となるのか』

本篇第64弾 全6回  
平成23年7月3日～31日、8月14日放送

「環太平洋連携(いわゆるTPP)」。これは昨年10月1日、菅直人首相の所信表明演説で初めて国民の耳に飛び込んだ言葉です。しかし、農業への壊滅的打撃が予想されることから、自民党、農業団体からは反対の声が上がっただけではなく、民主党内からも異議が出、また閣内からも農水大臣、経産大臣が慎重論を唱えるなど首相の突出ぶりが浮き彫りとなりました。

その後11月に横浜で開催されたAPECで議長国として菅首相は、TPPやFTAなど自由化の旗を振る役回りを演じ、さらに年明けの1月にはダボス会議で「開国」という言葉を10回以上繰り返して、TPP参加への意欲を印象づけました。そして3月11日の東日本大震災を経て、本来なら6月にTPPへの参加、不参加を決めるとしていた決定を先送りしました。首相が指導力を発揮して政策を決め推進することはあって然るべきことですが、今回のTPPに関しては国内の反対が少なくない中、きちんとした議論や情報提供がなされないまま、菅首相の思いつきで前のめりに突っ走る姿が鮮明になりました。TPPは我が国の在り方を大きく変える可能性のある問題で結論は急ぐべきではなく、国民的議論を経て決定すべきことです。「第三の開国」「平成の開国」「世界の潮流に取り残される」などの言葉に惑わされることなく、我が国の国益を第一義にして議論を深めて決定すべき課題です。

そこで今回のシリーズは「TPPは日本の国益か」と題して議論します。



APEC CEO Summit 2010 Yokohama

平成22年11月13日、菅直人首相は、例外なしの関税撤廃を前提とする環太平洋経済連携協定(TPP)の交渉参加に向けて「関係国との協議を開始する」と表明

〈シリーズ〉

- |            |                              |              |
|------------|------------------------------|--------------|
| <b>第1回</b> | <b>TPPの影響はすべての業界に激震をもたらす</b> | 平成23年7月3日放送  |
|            | 香月洋一／川口武壽・行實正明／中実柚菜／なし       |              |
| <b>第2回</b> | <b>TPPで日本はこうなる①</b>          | 平成23年7月10日放送 |
|            | 小菅玄三郎／木村秀人・奈田明憲／中実柚菜／小野実里    |              |
| <b>第3回</b> | <b>TPPで日本はこうなる②</b>          | 平成23年7月17日放送 |
|            | 小菅玄三郎／小川英造／中実柚菜／小野実里         |              |
| <b>第4回</b> | <b>TPPで日本の農業は大打撃を受ける</b>     | 平成23年7月24日放送 |
|            | 香月洋一／行實正明／中実柚菜／なし            |              |
| <b>第5回</b> | <b>TPP賛成論を検証する</b>           | 平成23年7月31日放送 |
|            | 香月洋一／木村秀人・奈田明憲／中実柚菜／なし       |              |
| <b>第6回</b> | <b>TPP賛成論を検証する②</b>          | 平成23年8月14日放送 |
|            | 香月洋一／小川英造／中実柚菜／なし            |              |

※ 出演者は コメンテーター／ゲスト／パーソナリティ／アシスタント の順で表記した。 ※ 敬称略。

日本再発見

## 『中国のウソと日中歴史問題』

本篇第65弾 全6回

平成23年8月28日～平成23年10月2日

軍事大国、経済大国となった中国を隣国に持つ日本にとっては、如何にその隣国と付き合いしていくかは重要な課題です。しかもその大国が我が国に悪意を持つ国となれば尚更です。これまでも日中関係は一方的に我が国が守勢に立たされるという歪んだ関係と言わざるを得ませんが、その大きなそして唯一の原因は歴史問題です。

日清戦争、満州事変、支那事変と明治開国以来日本は中国を侵略してきた、とする見方です。われわ

れはこの『日曜討論』でもそのような見方は中国のプロパガンダであり、ウソの歴史観、歴史捏造であることを明らかにしてきました。つまり中国のウソを日本人が簡単に信じてしまっているのです。歴史の事実を素直に見ればそのウソに気付くのですが、戦後の自虐的な歴史教育、東京裁判史観に汚染された新聞、出版、テレビ放送などにより日本人が目曇らされています。ところで、最近日中間の行き来がいろいろな意味で格段と多くなり、新たな局面に入ったとも言えます。経済的關係が強くなり、歴史問題など無視して従属的でもいいからカネ儲けが第一だと考える日本人もいる一方、中国に旅行したり、インターネットやテレビの生の映像を通して中国の実態に触れ、贖罪意識を離れて中国を見る機会も増えて来ました。

そうした中、先日7月23日に起こった中国高速鉄道事故で目のあたりにした中国の実態は、中国のウソ、を改めて思い起こさせました。

そこで今回は「中国のウソと日中歴史問題」を考えたいと思います。

〈シリーズ〉

- |            |                           |              |
|------------|---------------------------|--------------|
| <b>第1回</b> | <b>中国人は世界を相手に平然とウソをつく</b> | 平成23年8月28日放送 |
|            | 香月洋一／川口武壽・行實正明／中実柚菜／なし    |              |
| <b>第2回</b> | <b>尖閣問題に見る中国のウソ</b>       | 平成23年9月4日放送  |
|            | 小菅玄三郎／古賀誠・木村秀人／中実柚菜／小野実里  |              |
| <b>第3回</b> | <b>満州事変論争に見る中国のウソ</b>     | 平成23年9月11日放送 |
|            | 香月洋一／小川英造・藤井守人／小野実里／なし    |              |
| <b>第4回</b> | <b>シナ事変論争に見る中国のウソ</b>     | 平成23年9月18日放送 |
|            | 小菅玄三郎／安倍輝彦・奈田明憲／中実柚菜／小野実里 |              |
| <b>第5回</b> | <b>南京大虐殺論争に見る中国のウソ①</b>   | 平成23年9月25日放送 |
|            | 香月洋一／萩尾行孝・岡田三郎／中実柚菜／なし    |              |
| <b>第6回</b> | <b>南京大虐殺論争に見る中国のウソ②</b>   | 平成23年10月2日放送 |
|            | 香月洋一／吉田重治／中実柚菜／なし         |              |

※ 出演者は コメンテーター／ゲスト／パーソナリティ／アシスタント の順で表記した。 ※ 敬称略。



平成23年7月23日に起こった中国高速鉄道事故は、40人の死者を出す惨事となった。事故原因を究明することなく、証拠隠蔽を図るためにすぐさま事故車両を破壊し、穴に埋めようとした中国政府の行動には、世界が驚愕した

日本再発見

## 『南京で何がおこったのか』

本篇第66弾 全6回

平成23年10月9日～平成23年11月13日

隣の軍事大国、経済大国である中国が、力の弱い国に対しては強圧的外交に出ることが益々露骨になっています。日本の課題はいつも守勢に立たされる対中国外交をいかに対等外交に立て直すかです。我が国が中国に対して守勢となる原因は、日中歴史問題です。日本が中国を侵略したという誤った歴史認識です。誤った贖罪意識を刷り込まれているのです。中国は歴史問題が外交カードとして有効である限り使い続けます。



昭和12年12月、南京陥落直後、日本軍より配給を受ける南京市内の安全区の避難民。軍政を敷いた日本の南京統治は、一人の餓死者も出さなかった。

中国がウソを平気で作る国であることは、日中の往来が頻繁になるにつれ、テレビなどの映像を通じて多くの日本国民がまざまざと知ることになりました。今年7月の中国高速鉄道事故、昨年9月の漁船尖閣領域侵犯事件、平成20年の毒ギョーザ事件などでの政府関係者の明らかなウソの発言には多くの国民が啞然とさせられました。

しかし、中国人のウソが日中歴史問題でも大いに発揮されていることに果たしてどれだけの国民が気が付いているのでしょうか。日中歴史問題におけるウソによりどれ程日本の国益が損なわれていることでしょうか。

そこで今回のシリーズは、日中歴史問題の最大のウソである、いわゆる"南京大虐殺"について、「南京で何が起ったのか」と題して議論して参りたいと思います。

〈シリーズ〉

- |            |                           |               |
|------------|---------------------------|---------------|
| <b>第1回</b> | <b>南京の捕虜処刑は違法か</b>        | 平成23年10月9日放送  |
|            | 香月洋一／小川英造・藤井守人／中実柚菜／なし    |               |
| <b>第2回</b> | <b>南京安全地帯で起きたこと</b>       | 平成23年10月16日放送 |
|            | 香月洋一／川口武壽／中実柚菜／なし         |               |
| <b>第3回</b> | <b>南京の埋葬記録から分かること</b>     | 平成23年10月23日放送 |
|            | 香月洋一／萩尾行孝・岡田三郎／小野実里／なし    |               |
| <b>第4回</b> | <b>虐殺派の言う軍民虐殺は本当なのか</b>   | 平成23年10月30日放送 |
|            | 小菅玄三郎／木村秀人／中実柚菜／小野実里      |               |
| <b>第5回</b> | <b>南京大虐殺のウソはこうして作られた</b>  | 平成23年11月6日放送  |
|            | 香月洋一／安倍輝彦・吉田重治／小野実里／なし    |               |
| <b>第6回</b> | <b>やっぱり無かった南京"大虐殺"</b>    | 平成23年11月13日放送 |
|            | 小菅玄三郎／小川英造・藤井守人／中実柚菜／小野実里 |               |

※ 出演者は コメントーター／ゲスト／パーソナリティ／アシスタント の順で表記した。 ※ 敬称略。



日本再発見

## 『韓国朝鮮に謝罪するいわれはない』

本篇第67弾 全6回

平成23年11月20日～平成23年12月25日

民主党政権になって対韓外交は卑屈な姿勢が際立っています。昨年8月の菅首相談話は朝鮮総督府の政策を全く無視し、韓国の言い分をその儘なぞったものでしかありませんでした。

先月の前原誠司政調会長の韓国での発言は、かつて失敗したいわゆる慰安婦基金を再び繰り返そうというものですが、そこまでして韓国の歓心を買いたいのかと不思議な気持ちになります。

さらに野田佳彦総理が訪韓時に持参した朝鮮王朝儀軌は、昭和40年の日韓基本条約で既に日本に所有権が移り完全に日本の物になっている品物であるにもかかわらず、相手の要求に屈して、いともたやすく渡しました。条約ですでに決着のついた問題を覆すことがどれだけ禍根を残すものであるか、を全く認識していないと断言せざるをえません。昭和40年に締結された日韓基本条約は日韓関係の大前提のはずです。それを反故にすることを外交の手土産にする発想は、外交とは相手への妥協ではなく国益を守る本質を忘れ、個人間の波風立てないレベルに矮小化しており、愚鈍そのものと言うしかありません。国家指導者としての資格は全くありません。

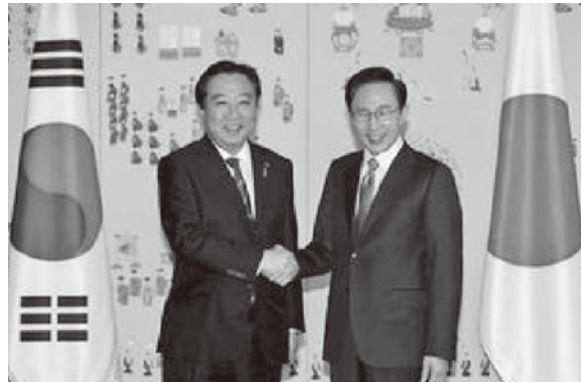
このような卑屈な姿勢は、日本の朝鮮統治は酷いものであった、との間違った歴史認識が原因です。巷間にも同じような人達が多くいます。

そこで今回は「韓国朝鮮に謝罪するいわれはない」と題して、日本の朝鮮統治について議論して参ります。

〈シリーズ〉

- |     |                             |               |
|-----|-----------------------------|---------------|
| 第1回 | 日本は前近代社会の朝鮮を近代法治文明社会に変えた    | 平成23年11月20日放送 |
|     | 香月洋一／藤原悠一・日隈精二・川口武壽／中実柚菜／なし |               |
| 第2回 | 日本は韓国に近代化の精神と経験を植え付けた       | 平成23年11月27日放送 |
|     | 香月洋一／萩尾行孝・岡田三郎／中実柚菜／なし      |               |
| 第3回 | ハングルを朝鮮に普及させたのは日本である        | 平成23年12月4日放送  |
|     | 香月洋一／行實正明／中実柚菜／なし           |               |
| 第4回 | 閔妃暗殺の真実                     | 平成23年12月11日放送 |
|     | 小菅玄三郎／安倍輝彦・吉田重治／中実柚菜／小野実里   |               |
| 第5回 | いわゆる従軍慰安婦問題は冤罪だ             | 平成23年12月18日放送 |
|     | 香月洋一／木村秀人／中実柚菜／なし           |               |
| 第6回 | 日韓補償問題は完全かつ最終的に解決           | 平成23年12月25日放送 |
|     | 小菅玄三郎／香月洋一／小野実里／なし          |               |

※ 出演者は コメントーター／ゲスト／パーソナリティ／アシスタント の順で表記した。 ※ 敬称略。



平成23年10月19日、野田佳彦首相は李明博大統領に、朝鮮王朝時代の行事を記録した文書「朝鮮王室儀軌」などの一部を引き渡した。しかしこの文書は、昭和40年の日韓基本条約で日本に所有権のあることが両国で確定しているものである。

日本再発見

## 『知って驚く韓国の主張』

本篇第68弾 全6回

平成24年1月8日～平成24年2月12日

最近の我が国では、韓国の料理、旅行、ドラマ、タレントなどにより韓国に親近感を覚える人達も増えている反面、韓国の反日政策、歴史捏造、竹島問題、慰安婦問題などから韓国に厳しい目を向ける人達も増えています。隣国どうしというのは様々な要因により軋轢を生みやすいのは世界中で見られることですが、日韓関係というのは他では見られない特異な様相を呈しています。韓国は反日を国の政策としていると言ってもいいでしょう。日本は韓国とは戦争をした訳では



平成17年の『マンガ嫌韓流』以来4巻を発行し、累計90万部に達している。日韓に横たわる歴史問題、領土問題など政治的話題が取り上げられ、韓国の一方向的な主張に論駁が加えられたものである

ありません。かつて日本と戦争をしたアメリカ、中国、ロシアも、今やアメリカは日本の同盟国です。中国とは歴史認識、竹島問題で鋭く対立していますが、韓国との歴史論争とはその性格を異にしています。ロシアとは領土問題がありますが、只それだけで反日ではありません。

日本の統治を受けたことが原因になるのであれば、台湾が世界一の親日国家になることはありません。隣国である以上付き合いは避けて通ることは出来ませんが、今の韓国の対日政策は異常であり日本は受け入れることは出来ません。しかし、日韓問題は日日問題とされています。日本人が考えを変えれば、今より日韓関係は良くなることは確かです。日本人の中に韓国の手先となって日本の国益を棄損している勢力があり、また真実の韓国の姿を隠蔽するマスコミのために間違った韓国像を植え付けられた日本人が多くなります。日韓関係の改善には誤った日本人の韓国の見方を正しいものにする必要があります。

そこで今回は「知って驚く韓国の主張」と題して日本人が知っておくべき韓国の実像を議論します。

(シリーズ)

- |     |                           |              |
|-----|---------------------------|--------------|
| 第1回 | 韓国ではくあった歴史>よりくあって欲しかった歴史> | 平成24年1月8日放送  |
|     | 香月洋一／奈田明憲／中実柚菜／なし         |              |
| 第2回 | 韓国は世界で唯一日本人をバカにしている国      | 平成24年1月15日放送 |
|     | 小菅玄三郎／木村秀人／小野実里／なし        |              |
| 第3回 | 韓国で日本統治を褒めると社会的地位を失う      | 平成24年1月22日放送 |
|     | 香月洋一／小川英造・藤井守人／中実柚菜／なし    |              |
| 第4回 | 韓国人の謝罪要求は従属も要求            | 平成24年1月29日放送 |
|     | 香月洋一／安倍輝彦・吉田重治／中実柚菜／なし    |              |
| 第5回 | 日本統治時代は韓国の歴史上最も人命を尊重      | 平成24年2月5日放送  |
|     | 小菅玄三郎／日隈精二／中実柚菜／小野実里      |              |
| 第6回 | 韓国の法社会は前近代社会              | 平成24年2月12日放送 |
|     | 香月洋一／藤原悠一／小野実里／なし         |              |

※ 出演者は コメントーター／ゲスト／パーソナリティ／アシスタント の順で表記した。 ※ 敬称略。

日本再発見

## 『日本再建は歴史の智慧に学んで』

本篇第69弾 全6回

平成24年2月19日～平成24年3月25日

現在我が国は大変革を迫られています。幕末明治維新、敗戦に続く第三の大改革です。明治維新、戦後復興は成功した為にその困難さがともすれば忘れられがちですが、当時の状況をみると想像を絶する難事業でした。

幕末明治の頃、世界では圧倒的な科学技術力を持った欧米諸国のアジアアフリカ植民地化政策の真っ最中でしたが、幕末明治の志士達は万世一系の我が国柄を、日本大改革の中心に据えて、日本の独立を守り、近代国家日本を作るという偉業を達成しました。

江戸時代に各藩で培われた教育と武士道が決定的な役割を果たし、世紀の大事業を見事に成功させました。明治初年に欧米諸国を歴訪した我が国の視察団は、欧米と日本の差は40年と見積もりましたが、日露戦争に勝利したのは明治38年ですから、或る意味その先見性は驚くべきものがあります。幕末明治の指導者達にとって、日本の歴史の理解は、日本をどういう国にしていくのかを決める上で極めて大きな意味を持ちました。後に首相となる伊藤博文公は、1863年のイギリス留学の際、頼山陽の書いた歴史書『日本政記』を携えていたといわれています。彼にとって近代国家日本を造る時に、日本とは何か、を考える上で歴史理解は不可欠でした。大東亜戦争に敗れて日本は焼け野原となりましたが、20年で見事に復興を遂げました。その主役は明治・大正生まれの人達でしたが、戦前に教育を受けた父祖は、幕末明治維新を成し遂げた先人達と歴史認識を共有していました。

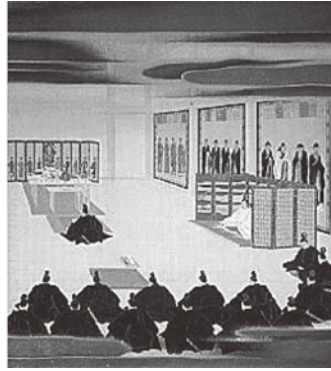
今我々が直面している困難な国家の課題を解決していくためには、我が国の歴史は豊かな材料を提供してくれています。「愚者は経験に学び賢者は歴史に学ぶ」と云います。

そこで今回のシリーズでは「日本再建は歴史の智慧に学んで」と題して議論して参ります。

(シリーズ)

- |     |                                |              |
|-----|--------------------------------|--------------|
| 第1回 | 『古事記』『日本書紀』に学ぶ日本               | 平成24年2月19日放送 |
|     | 香月洋一／萩尾行孝・岡田三郎／中実柚菜／なし         |              |
| 第2回 | ユダヤ難民を救った八紘一宇の精神               | 平成24年2月26日放送 |
|     | 日隈精二／小川英造／中実柚菜／小野実里            |              |
| 第3回 | 横っツラを張られても目が覚めない日本外交           | 平成24年3月4日放送  |
|     | 小菅玄三郎／木村秀人／中実柚菜／小野実里           |              |
| 第4回 | 世界に誇る万世一系の皇室の伝統                | 平成24年3月11日放送 |
|     | 小菅玄三郎／梶栗勝敏・川畑孝志・平田無為／中実柚菜／小野実里 |              |
| 第5回 | これが、南京“大虐殺”が無かった証拠             | 平成24年3月18日放送 |
|     | 香月洋一／安倍輝彦／小野実里／なし              |              |
| 第6回 | 南京事件虐殺派の言う虐殺は本当に虐殺なのか？         | 平成24年3月25日放送 |
|     | 香月洋一／日隈精二・川口武壽／中実柚菜／なし         |              |

※ 出演者は コメンテーター／ゲスト／パーソナリティ／アシスタント の順で表記した。 ※ 敬称略。



御慶応4年(明治元年)3月14日、明治天皇をはじめ公卿・諸侯以下百官が、五箇條の御誓文を明治維新の基本精神として天地の神々に誓われた。以後、五箇條の御誓文は、近代国家建設の様々な施策に受け継がれ、わが国の発展に寄与した

日本再発見

# 『ありがとう台湾-世界一の親日国に感謝』

本篇第70弾 全6回

平成24年4月1日～平成24年5月6日

平成11年に始まった「日華(日台)親善友好慰霊訪問団」は、昨年で13回目を迎えました。「英霊顕彰なくして誠の家族(兄弟)交流なく、その絆と広がりなくして日台両国の国交回復なし」をモットーに、昨年まで13回に亘って親善友好慰霊訪問が行われました。その間、訪問団の参加者は延べ384人を数え、また訪問団と縁故のできた現地台湾の人々は700人を超えました。先の大戦で日本人として亡くなられた3万3千余柱の方々に追悼と感謝の誠を捧げることが、台湾の方々との心からの信頼関係を築き、魂の交流に繋がっています。



平成23年3月11日の東日本大震災に対して、最も迅速、且つ最大の義捐金を送ってくれた国は、台湾であった。第13次慰霊訪問団では、台湾政府や国民に日本国民の感謝の気持ちを伝え、滞在期間中に数多くの取材と歓待を受けた

昨年の東日本大震災からはや一年、台湾から真っ先に救助隊の派遣、そして、民間も含めて200億円という莫大な義捐金を提供していただいたことに、心より感謝申し上げます。またこの支援によって、わが国にとって台湾がいかに掛け替えのない国であるか、そして、私たち訪問団がこれまで行ってきた台湾との交流の意義を改めて感じさせられました。

昨年11月に行われた、第13次慰霊訪問団には、昨年同様45名の方々が参加されました。その中で、産経新聞の頼永博朗さんが団員として同行し、4泊5日の旅の一部始終を克明に取材されました。百聞は一見に如かず、本日から、計6回にわたって放送されるこのシリーズでは、実際の写真をスライドショーでご覧いただきながら、日本と台湾の関係を考えて参りたいと思います。

〈シリーズ〉

- |            |  |              |
|------------|--|--------------|
| <b>第1回</b> | <b>震災復興支援の御礼と日台関係のあるべき姿</b>                  | 平成24年4月1日放送  |
|            | 小菅玄三郎／松俵義博・大西敬吾・大西雅樹・黄楷棻／中実柚菜／小野実里・池田裕二      |              |
| <b>第2回</b> | <b>今も現地に残るわが国・日本の誇り</b>                      | 平成24年4月8日放送  |
|            | 小菅玄三郎／永田昌巳・下田健一・下田純子・桐野尚枝・黄楷棻／中実柚菜／小野実里・池田裕二 |              |
| <b>第3回</b> | <b>日本人の功績と訪問団の実績</b>                         | 平成24年4月15日放送 |
|            | 小菅玄三郎／古賀誠・田中道夫・黄楷棻／小野実里／池田裕二                 |              |
| <b>第4回</b> | <b>日台の生命の絆の淵源たるもの</b>                        | 平成24年4月22日放送 |
|            | 小菅玄三郎／小野正明・神田橋勉・黄楷棻／中実柚菜／小野実里・池田裕二           |              |
| <b>第5回</b> | <b>台湾で生き続ける日本精神</b>                          | 平成24年4月29日放送 |
|            | 小菅玄三郎／古賀誠・中島公明・黄楷棻／中実柚菜／小野実里・池田裕二            |              |
| <b>第6回</b> | <b>第13次台湾慰霊訪問を終えて</b>                        | 平成24年5月6日放送  |
|            | 小菅玄三郎／三好誠・木村秀人・黄楷棻／小野実里／池田裕二                 |              |

※ 出演者は コメントーター／ゲスト／パーソナリティ／アシスタント の順で表記した。 ※ 敬称略。

日本再発見

## 『日本の危機を突破せよ』

本篇第71弾 全6回

平成24年5月13日～平成24年6月17日

国家の崩壊は自分のことが自分で決められぬところに来る、と言います。外国の言うがままに従い自らの意思を示さない場合は言うまでもありませんが、そこまで従属性が明白でなくても、みずから決断して行動すれば自らの意思を実現する事が可能であるのに敢えてそれをしない時と同じ結果となります。又、国家が滅びるのは外国の侵略よりは内部からの崩落からとも言います。外国が侵略して来ても国内が強固に結束し事に当たれば、そうそう侵略も成功しないものです。今の我が国は解決すべき様々



平成23年3月11日、日本における観測史上最大規模の大地震が発生し、約2万人の死傷者・行方不明者を出す東日本大震災に襲われた。地震や津波への対策、更には国家の緊急時や非常時に備える非常事態法の必要性等が明らかになった

な課題を突き付けられています。少子高齢化、産業の空洞化、巨額の財政赤字、原発エネルギー問題、予測される大地震の勃発、学力低下、家族崩壊、中国の軍事増強と膨張政策など多岐にわたっています。これらの中には時間的に余裕のあるもの、或いは後に修正がきくものもありますが、対策を誤ると取り返しのつかないものとして外交、安全保障があります。中でも最大の懸案は、中国の台頭です。中国は日本に対して明確に侵略の意図を示し、その工程表に従って行動を積み重ねています。中国の敵対行動が明らかであるのに日本は有効な対抗措置をとっていないという現実があります。勿論、時の政府に全責任がありますが、それを許しているのは国民の責任と言わざるを得ません。日本は敗戦の廃墟から見事な復興を成し遂げ繁栄を謳歌して来ましたが、数年後には戦後70年を迎えようとする今、大改革を迫られています。戦後の日本は国家ではなかった、単なる社会であった、という指摘もあります。

幕末、敗戦につづく第三の危機といわれる今の日本について、今回のシリーズ「日本の危機を突破せよ」をお送りします。

〈シリーズ〉

- |            |                            |              |
|------------|----------------------------|--------------|
| <b>第1回</b> | <b>核保有国はなぜ核武装したのか</b>      | 平成24年5月13日放送 |
|            | 香月洋一／日隈精二・小川英造／中実柚菜／なし     |              |
| <b>第2回</b> | <b>反核運動はかつてソ連と中国の手先だった</b> | 平成24年5月20日放送 |
|            | 香月洋一／萩尾行孝・岡田三郎／中実柚菜／なし     |              |
| <b>第3回</b> | <b>日本の核アレルギーの幼稚さ</b>       | 平成24年5月27日放送 |
|            | 香月洋一／安倍輝彦・吉田重治／中実柚菜／なし     |              |
| <b>第4回</b> | <b>日本の核武装の意義</b>           | 平成24年6月3日放送  |
|            | 香月洋一／川口武壽／中実柚菜／なし          |              |
| <b>第5回</b> | <b>アメリカの国力低下が日本核武装を生む</b>  | 平成24年6月10日放送 |
|            | 小菅玄三郎／日隈精二・小川英造／中実柚菜／なし    |              |
| <b>第6回</b> | <b>中国の属国か、それとも核武装か</b>     | 平成24年6月17日放送 |
|            | 小菅玄三郎／木村秀人／小野実里／なし         |              |

※ 出演者は コメンテーター／ゲスト／パーソナリティ／アシスタント の順で表記した。 ※ 敬称略。

日本再発見

## 『中国が敵であることを忘れてはならない』

### 本篇第72弾 全1回 平成24年6月24日

民主党政権の対中外交を見てみると、「中国は日本にとって敵なのか、そうでないのか」の認識が欠けていると言わざるを得ない事案が続いています。中国は平成4年に国内法で尖閣諸島を自国領と明記したことにより、日本から尖閣を奪うと世界に公言したのです。これは中国が日本を友好国ではなく敵国だと宣言したことになります。このことは日中関係を考える時の大前提でなければならないのです。しかし、民主党の外交を見ている



平成23年3月7日、東シナ海の日中中間線付近で警戒監視に当たっていた海上自衛隊の護衛艦「さみだれ」に、中国海洋局所属とみられるヘリが接近し、同護衛艦をカメラで撮影しながら周囲を一周。まさに敵情視察の行為である

と、この事には全く気付いていないかの如くです。自民政権の対中外交も土下座外交と厳しく批判されましたが、民主党のそれは、それに輪をかけたものになり下がっています。

3年前の習近平副主席の天皇謁見の設定慣礼無視、一昨年9月の尖閣体当たり漁船の中国人船長無罪放免、今年1月の北京日本大使館使用許可延期で揺さぶりかけられて譲歩し、新潟市5000坪民有地の中国への売却を容認、先日の石原都知事尖閣買収反対発言の丹羽中国大使の続投など、明らかな国益毀損の数々を繰り返しています。

日中友好のもとに進められた日本のODAは感謝されるどころか軍事大国の手助けの役割を果たし、反日デモは目的をもって扇動され、経済偏重が日本の国益を棄損する現実を見ようとしない日本経済界など、中国との付き合いの学習効果はないのか、と憤りを禁じ得ません。いつまでこのような屈辱外交を続けるつもりなのでしょうか。

軍事大国となった中国は、日本侵略の動きを顕在化させています。日本は覚悟をもってそれに対峙しなければ呑み込まれる可能性が大です。

そこで今回のシリーズは「中国が敵であることを忘れてはならない」と題してお送りします。

〈シリーズ〉

#### 第1回 新潟市中国領事館建設を阻止せよ

平成24年6月24日放送

香月洋一／萩尾行孝・岡田三郎／中実柚菜／なし

※出演者は コメンテーター／ゲスト／パーソナリティ／アシスタント の順で表記した。 ※敬称略。

※このシリーズは平成24年8月5日までの全6回の予定です。

## 年 末 年 始 企 画

平成23年は我が国にとって国難の年でした。東北大震災はその巨大津波の破壊力により3万人もの犠牲者を生み、住まい、仕事場を根こそぎ奪い、膨大な人々の生活を破壊しました。さらに津波による電源喪失がもたらした原発事故は甚大な影響を今なお残しています。また、世界情勢は各国での政権交代ははじめこれまで以上に激しく動くことが予想されています。我が国も様々な国内の課題を抱えています。平成24年元旦には、九州大学大学院・比較社会文化研究院・准教授の施光恒(せ てるひさ)氏をお迎えし、一年を振り返り、また新しい年の展望を伺いました。



平成24年1月1日の放送より

(これまでの年末年始篇)

- |   |               |
|---|---------------|
| 1. 台湾前総統李登輝先生とお会いして                           | 平成15年12月28日放送 |
| 2. 日曜討論を振り返って                                 | 平成16年1月4日放送   |
| 3. 慰霊は日台の魂の交流                                 | 平成16年12月26日放送 |
| 4. 台湾からのメッセージ                                 | 平成17年1月2日放送   |
| 5. 平成18年日本の課題を展望する                            | 平成18年1月1日放送   |
| 6. 海の彼方のニッポン“台湾”を訪ねて－慰霊は日台の魂の交流               | 平成18年1月8日放送   |
| 7. 海の彼方のニッポン“台湾”を訪ねて－台湾防衛は英霊との約束              | 平成19年1月7日放送   |
| 8. 頑張ろう、日本。遠藤宣彦衆議院議員に聞く                       | 平成21年1月4日放送   |
| 9. 日台魂の交流に触れて                                 | 平成22年1月3日放送   |
| 10. 韓半島の情勢と大学生による日韓交流秘話－<br>日韓連携で拉致問題の解決を目指して | 平成23年1月2日放送   |
| 11. 日本再生は保守を旗幟(はたじるし)にして                      | 平成24年1月1日放送   |

## 番組開始周年企画

平成23年6月5日には、文明史家 黄文雄先生をお迎えしました。黄文雄先生は、中国人も日本人と変わらないとの幻想や、又、日本は中国を侵略したとの白虐史観が溢れていた日本で、いち早く「中国4000年の歴史は嘘である」、「アヘン戦争は中国の周辺諸国を中華秩序から解放した」、「日本は中国が長年かかって実現できなかった近代国家を満州にわずか数年で誕生させた」など、日本人にはない、独特の視点から中国を鋭く分析する著作を次から次へと発表され、我が国の論壇に大きな一石を投じてこられました。中国人は日本人といったいどう違うのか先生にお伺いしました。



平成23年6月5日の放送より

(これまでの番組開始周年篇)

- |   |               |
|---|---------------|
| 1. 真の日中友好を考える①(日中再考－似て非なる隣人)                      | 平成16年 9月26日放送 |
| 2. 真の日中友好を考える②(反日中国に如何に対応すべきか)                    | 平成17年 7月 3日放送 |
| 3. 真の日中友好を考える③(増大する覇権主義中国の軍事的脅威に<br>日台は如何に対応すべきか) | 平成19年 6月 3日放送 |
| 4. 軍人墓地の管理は国の責任である                                | 平成21年 8月23日放送 |
| 5. 福岡城と陸軍   | 平成21年10月11日放送 |
| 6. 黄文雄先生 日本、中国の文化・政治・歴史を語る                        | 平成23年 6月 5日放送 |

## 特別企画

昨年、平成22年9月7日沖縄県尖閣諸島の領海を侵犯した中国漁船が、海上保安庁の巡視船に追突行為を繰り返し、船長が逮捕されるという由々しき事件が発生しました。中国政府は、船長の無条件釈放を要求しあらゆる圧力をかけ、那覇地方検察庁は取調べ中の船長を処分保留のまま釈放しました。

この事件をきっかけに、日本の領土・領海を守る法整備の不備や、南沙諸島や西沙諸島、そして東シナ海への覇権を強める中国の問題が明らかになりました。

これらに対し、全国組織・日本会議では、請願署名活動や、沖縄本島や石垣市での啓発集会を企画・実施しています。日本会議の全国縦断キャラバン隊が福岡にこられましたので、尖閣諸島・沖縄を守る活動について報告戴きました。

民主党政権が発足し、鳩山内閣、菅内閣と2年が経過しましたが、その結果は惨憺たるものと言わざるを得ません。民主党が成立を意図していた夫婦別姓法、外国人地方参政権付与法、図書館法改正、人権擁護法は何としても阻止せねばならないと訴えてきましたが、政権運営の混乱からそれら売国四法案はそのままとなっています。民主党政権が続く限りそれら悪法成立に対する警戒を緩めることは出来ません。民主党政権には、只々国益を棄損しないで、一日も早い退陣を願うばかりです。特別番組として、衛藤晟一参議院議員をお迎えして、民主党政権の問題点と今後の対応を語って頂きました。



平成23年9月7日の放送より



平成23年8月21日の放送より

〈これまでの特別篇〉

- |   |               |
|---|---------------|
| 1. 時事問題/竹島問題を考える  | 平成17年3月20日放送  |
| 2. 時事問題/"百人斬り"は冤罪だ  | 平成17年5月29日放送  |
| 3. 教育問題/ゆとり教育を問い直す  | 平成17年12月18日放送 |
| 4. 時事問題/皇位継承と皇室典範改定   | 平成18年2月12日放送  |
| 5. 台中問題/ようこそ、第8次日華(台)親善友好慰霊訪問団へ                             | 平成18年10月1日放送  |
| 6. まちづくり問題/よりよい福岡市づくりを                                      | 平成18年10月8日放送  |
| 7. くにつくり問題/世界一日本に自信と誇りを                                     | 平成19年8月5日放送   |
| 8. 時事問題/沖縄戦集団自決の真相と教科書検定                                    | 平成19年10月14日放送 |
| 9. 時事問題/沖縄戦集団自決は軍命令ではない①                                    | 平成19年11月18日放送 |
| 10. 時事問題/沖縄戦集団自決は軍命令ではない②                                   | 平成19年11月25日放送 |
| 11. 時事問題/教科書問題と沖縄県民の総意                                      | 平成19年12月2日放送  |
| 12. 時事問題/中国の工作から沖縄を守れ                                       | 平成19年12月9日放送  |
| 13. 時事問題/天皇陛下御即位20年奉祝を全国各地で!                                | 平成20年7月27日放送  |
| 14. 時事問題/田母神論文と村山談話   | 平成20年11月16日放送 |
| 15. まちづくり問題/歌と町おこし-故郷(ふるさと)を歌う                              | 平成21年9月6日放送   |
| 16. 時事問題/永住外国人地方参政権は実現させてはならない                              | 平成21年10月4日放送  |
| 17. 時事問題/ちよっとまっつ! 夫婦別姓                                      | 平成21年12月13日放送 |
| 18. 時事問題/"千船保釣"を阻止せよ!<br>一 沖縄・尖閣諸島を守るわれらが闘い                 | 平成23年8月7日放送   |
| 19. 時事問題/自民党地方組織・議員総局長衛藤晟一参議院議員に<br>聞く 民主党が進める危険な法案と尖閣問題の行方 | 平成23年8月21日放送  |



## スタジオ日本 特別報道番組

平成15年10月にFM電波を利用して放送が開始された「日曜討論」は、平成22年11月からインターネット・ユーストリームで生放送し、またアーカイブでも視聴できるようになりました。

ラジオと違って映像をご覧いただきながら、ツイッター等で視聴者の皆様も討論にリアルタイムで参加できるようになりました。

スタジオ日本では、この仕組みを更に拡大深化させ、従来の日曜討論とは別に平成23年8月から「特別報道番組」としての放送を開始しました。

これは私たちが国民の皆様には是非知って欲しいと願っているテーマの講演内容を取材し、広く世に発信する新しい試みです。今日のマスコミやメディアでは決して報道されることのない催しを、インターネットを利用して世界中に配信してまいります。明日の日本人である私たちの子孫のために「誇りある国づくり運動」のメディア部門の一環として、日曜討論と同様、この番組も大いにご視聴ください。



台湾特別講演会パネルディスカッション

〈これまでの特別報道番組〉

### 1. 第5回「支える会」定期総会・記念講演会・懇親会 平成23年8月21日放送

江崎道朗先生(日本会議専任研究員)「マスコミの報じない歴史の真実／開戦70周年～東京裁判史観の見直しがアメリカで始まった」

### 2. 第10回 台湾特別講演会『ありがとう台湾 世界一の親日国へ感謝』 平成24年6月3日放送

基調講演 黄文雄先生(文明史家)

演題「日本と台湾の過去・現在・未来～私たちが目指すべき日台の関係」

パネルディスカッション 黄文雄先生(文明史家)、施光恒先生(九州大学大学院准教授)、柳原憲一先生(西日本台湾学友会前会長)、小菅玄三郎(日華(台)親善友好慰訪訪問団団長)

演題「東日本大震災から見た日台の生命の絆～

台湾国民は何故世界一のご支援をして下さったのか」

## 意見広告・インターネット 広報活動

〈産経新聞意見広告掲載〉

1. 「日本に移民は必要か」 平成22年5月13日

2. 「尖閣諸島は先祖から受け継いだ  
私たち日本の国の領土です。」 平成22年10月22日

3. 「九州電力に感謝し、心から応援します。」 平成23年11月4日

4. 「待望の『日曜討論全番組アーカイブス』  
4月公開!」 平成24年2月27日

〔日曜討論HPお知らせ〕

1. 『捏造の歴史教育にストップ』ホワイトハウス請願サイトにご協力を! 平成24年4月24日

2. 『米の慰安婦像撤去請願に署名を!』  
ホワイトハウス請願サイトにご協力を! 平成24年5月16日



慰安婦像撤去請願サイト(ホワイトハウス)

# 『スタジオ日本 日曜討論番組を支える会』

皆様のご入会を心からお待ちしています

## 役員さんをご紹介します。

顧問	西川京子	前衆議院議員	世話人	田中道夫	(株)ハウジングアーキテクチャーCEO
顧問	山本泰藏	日本会議福岡理事長	世話人	山口敬之	教育研究会未来
顧問	多久善郎	日本協議会理事長	世話人	古賀 誠	楽天堂広橋病院医師
顧問	北村弥枝	教育研究会未来理事長	世話人	施 光恒	九州大学大学院准教授
相談役	松依義博	松依建設(株)会長	世話人	木村秀人	私立博多高等学校教諭
相談役	関 文彦	(株)関家具代表取締役	世話人	矢ヶ部大輔	福岡教育連盟執行委員長
相談役	角 洋一郎	九栄会会長	世話人	梶栗勝敏	日本会議福岡事務局長
相談役	三好 誠	日本ペンクラブ会員	営業	高山由香里	(株)日本教育開発
代表世話人	小菅亥三郎	(専)ライセンスカレッジ理事長	会計	茅野輝章	(株)日本教育開発
副代表世話人	香月洋一	(医)香月内科医院理事長	監事	日隈精二	染呉服ますや店主
世話人	伊藤 伉	不二歌道會九州地方聯合會會長			

(順不同)

## 成就するまで継続します。(すべて数値は平成24年6月30日現在です。)

〈平成15年10月から平成24年6月までの8年9ヶ月の記録〉 ※なお、項目は発生順におこしました。

- 放送 456回(但し、1回2.5時間) 1,140時間
- 出演者 延べ2,504名 正味355名  
※内訳は正味355名の中で( )内は国土地理院の都道府県コードです。  
性別 男246名、女109名  
地域別 北海道・東北(1-7) 0名 中国(31-35) 6名  
関東(8-14) 25名 四国(36-39) 0名  
中部・北陸(15-23) 2名 九州(40-47) 312名  
近畿(24-30) 9名 台湾 1名
- 贈呈CD(テープ) 3,407枚(本)  
※ご出演いただいた方には、放送の収録CD(テープ)を贈呈! 原則1人2枚(本)!
- 慰労会 5回  
①平成15年11月 9日(日) 洲上様による 9名 梅の花  
第1回「男女共同参画を考える」シリーズを終えて  
②平成15年12月21日(日) 洲上様による 9名 梅の花  
第2回「歴史教育を考える」シリーズを終えて  
③平成16年 4月 4日(日) 洲上様による 13名 ウォーターリリー  
第4回「海の彼方のニッポン“台湾”を訪ねて」シリーズを終えて  
④平成16年 9月26日(日) 山口様による 14名 花万葉  
第8回「愛は家庭から」シリーズを終えて  
⑤平成17年 3月 5日(土) 山口様による 15名 花万葉  
第11回「家族の絆」シリーズを終えて
- 集大成作業 8回(但し、①は特集記事、②以降は特集号)  
①平成16年6月号 通巻No.513 部数10,000 標語:子供は未来からの客人  
②平成17年9月号 通巻No.528 部数 5,000 表紙:尖閣  
③平成18年6・7月合併号  
通巻No.533 部数 5,000 表紙:竹島  
④平成19年春号 通巻No.537 部数 3,000 表紙:亀山上皇の像(元寇)  
⑤平成20年秋号 通巻No.543 部数 3,000 表紙:靖國神社  
⑥平成21年夏号 通巻No.546 部数 2,400 表紙:対馬  
⑦平成22年夏号 通巻No.550 部数 1,000 表紙:与那国島  
⑧平成23年秋号 通巻No.554 部数 1,000 表紙:東日本大震災
- 総会他 8回(但し、懇親会含む)  
①平成16年8月 8日(日) 発起人会 24名 花万葉  
②平成17年8月21日(日) 設立の集い 32名 平和樓  
③平成18年8月20日(日) 準備総会 32名 テラホール  
④平成19年8月19日(日) 第1回定期総会 38名 スカイホール  
⑤平成20年8月17日(日) 第2回定期総会 44名 スカイホール  
⑥平成21年8月23日(日) 第3回定期総会 47名 スカイホール  
⑦平成22年8月22日(日) 第4回定期総会 103名 テラホール  
⑧平成23年8月21日(日) 第5回定期総会 82名 テラホール
- 支える会 186名(但し、累計)  
性別 男157名、女29名 種別 内訳 特別会員(法人) 12社 正会員 66名  
特別会員(個人) 25名 番組会員 83名

## 会則

- 第1条 (名称)  
本会は「スタジオ日本『日曜討論』番組(以下「番組」と称す)を支える会」と称する。
- 第2条 (事務局)  
本会の事務局は福岡市中央区天神1-3-38に置く。
- 第3条 (目的)  
本会は①「誇りある国づくり」のための番組の継続。  
②番組の放送主体であるスタジオ日本(以下「スタジオ」と称す)の後援。  
③出演者(制作者含む)相互の研鑽及び親睦をその目的とする。
- 第4条 (会員)  
本会の会員は次の3種とする。  
①特別会員 本会の目的に賛同し、本会の事務局を支援するため、入会金、賛助金1口以上を納める法人又は個人。  
②正会員 本会の目的に賛同し、入会金、年会費を納める者。  
③番組会員 本会の目的に賛同し、番組成立のため協力でき、入会金、年会費を納める者。
- 第5条 (入会)  
本会に入会を希望する者は所定の申込手続により、入会することができる。
- 第6条 (会費)  
本会の経費は入会金、賛助金、会費、寄付金をもってこれに充当する。  
①会員として入会を希望する者は、入会金として1,000円を入会と同時に納入する。  
②特別会員の賛助金(1口)は法人120,000円、個人10,000円とし、入会と同時に納入し、次年度以降は3月末日迄に納入する。  
③正会員の会費は年額5,000円とし、3月末日迄に翌年度の1年分を一括して納入する。  
④番組会員の会費は年額3,000円とし、3月末日迄に翌年度の1年分を一括して納入する。
- 第7条 (会計年度)  
本会の会計年度は毎年4月1日より翌年3月31日迄とする。
- 第8条 (役員)  
本会に次の役員を置く。  
顧問 若干名 有識者他。  
相談役 若干名 有識者他。  
代表世話人 1名 会を代表し、会務を統括。  
副代表世話人 1名 代表世話人を補佐し、番組を企画。  
世話人 若干名 代表世話人の命を受けて、会務を処理。  
営業 1名 会員募集。  
会計 1名 会計事務処理。  
監事 1名 会計監査。
- 第9条 (役員の任期)  
役員の任期は1年とし、再任を妨げない。
- 第10条 (役員の選任)  
①世話人は会員のうちから、代表世話人、副代表世話人は世話人のうちからそれぞれ役員会において選任する。  
②営業は会員募集、会計は会務処理を行う。
- 第11条 (役員会)  
役員会は代表世話人が必要に応じ招集する。
- 第12条 (総会)  
総会は原則として毎年8月にスタジオとの調整をとり開催することとし、代表世話人及び役員会において必要と認めたときには、臨時総会を開催することができる。
- 第13条 (総会の構成及び議決)  
総会は会員の出席をもって成立し、議事については出席会員の過半数の賛成で議決する。

- 8 かわら版 68回  
発行期間 平成18年6月の第1号以来、平成24年6月の第69号まで、毎月20日に発行  
発行部数 15,328部(69回ゆえ平均222部)
- 9 記念講演会 5回  
①平成19年8月19日(日) 第1回記念講演会 38名 スカイホール  
江崎道朗先生(日本会議経済人同志会)  
「誇りある国づくり運動におけるメディア戦略の位置づけ」  
②平成20年8月17日(日) 第2回記念講演会 44名 スカイホール  
江崎道朗先生(日本会議経済人同志会)  
「国益を守り真実を語り誠心を尽くすことに休日なし」  
③平成21年8月23日(日) 第3回記念講演会 47名 スカイホール  
江崎道朗先生(日本会議経済人同志会)  
「偏向報道の連鎖を断ち切ろう  
～NHKスペシャル『JAPANデビュー』の偏向報道の裏にあるもの」  
④平成22年8月22日(日) 第4回記念講演会 103名 テララホール  
清水馨八郎先生(千葉大学名誉教授)  
「日本文化・文明の本質～参院選と民主党の正体・W杯の総括などを通して」  
⑤平成23年8月21日(日) 第5回記念講演会 82名 テララホール  
江崎道朗先生(日本会議専任研究員)  
「マスコミの報じない歴史の真実/開戦70周年  
～東京裁判史観の見直しがアメリカで始った」
- 10 年末総会・新会員歓迎会 3回  
①平成21年12月11日(金) 24名 花万葉  
②平成22年12月10日(金) 40名 松幸  
③平成23年12月 9日(金) 35名 松幸
- 11 意見広告 4回  
①平成22年 5月13日(木) 産経新聞 全5段  
「日本に移民は必要か」  
②平成22年10月22日(金) 産経新聞 全5段  
「尖閣諸島は先祖から受け継いだ私たち日本の領土です。」  
③平成23年11月 4日(金) 産経新聞 全5段  
「九州電力に感謝し、心から応援します。」  
④平成24年2月27日(日) 産経新聞 全5段  
「待望の『日曜討論全番組アーカイブス』4月公開!!」
- 12 スタジオ運営にともなう専任技術者研修会 3回  
①平成23年 3月 2日(水) 7名 てら岡  
②平成23年11月 9日(水) 10名 松幸  
③平成24年 6月24日(日) 9名 花万葉
- 13 特別報道番組 2回 ※略称「特番」  
①平成23年 8月21日(日) スタジオ日本日曜討論番組を支える会  
第 5回 定期総会・記念講演会  
②平成24年 6月 3日(日) 日華(台)親善友好慰霊慰霊団  
第10回 台湾特別講演会



## 番組を支える

# スタッフ の皆さん

「スタジオ日本 日曜討論番組を支える会」でより良い番組を制作するため、出演者ならびに関係先との連絡調整等「日曜討論」の放送を陰で担っているスタッフの皆さんからコメントを頂きましたのでご紹介します。



中実 柚菜

日曜討論のパーソナリティーとして参加させていただき、早いものでもう6年の月日が流れようとしています。

この番組を通してさまざまな方と出会い今まであまり考えていなかった日本という国について考える機会をいただいた事は、私にとって意義深くとても有難い事と感じています。今の日本は領土問題や政治的な問題を多く抱えています。それなのに何の危機感も持たずただぼんやりと暮らしている人が多いのは、とても恐ろしいことだと思います。自虐史観を教えこむ教育機関、マスコミの偏向報道で事実を知らされず一方的に間違った情報しか受け取る事ができないという状況もその一因です。最近では意図的に報道されなかったデモなどもTwitterやFacebookなどで知ることが増え、若い方の中にもマスコミの報道に疑問を感じる人が少しずつ増えてきているように感じます。その方々にこの番組を聞いていただき今の日本の状況を正確に知っていただくことにより一人でも多くの方が真剣に我が国の未来について考える事が出来たら、これからの日本はいい方向に変わっていくのではないかと思います。知らないというのはとても危険なことです。いつのまにか自分の国の水源地が買い占められ対馬や尖閣が他の国に狙われていても何の危機感も持たないのはこの日本だけではないのでしょうか。

私は以前スイスのように永久中立国でいたらいいのにと感じていました

が、この番組でスイスは中立国であるためにきちんと自らの国を守るための軍事力を持っているという話を聞いて驚きました。そのような事実は聞いたことがなかったからです。でもよく考えると地続きのスイスが軍事力を持たないままであれば、あっという間に他の国に侵略されてしまうのは子供でもわかることです。日本は島国でその意識が低いとはいえ、あまりにも無防備であると言わざるを得ません。そういった意味からも一人一人が事実を知りしっかりと考えて行動できるようにこの番組では今起こっている出来事やその裏側にある真実を解りやすく伝えていけたらと思っています。

日曜討論は一つのテーマについて六回の放送を行います。毎回興味深く素晴らしい話が繰り広げられております。ひとつひとつのテーマから自分の身にひきつけて真剣に考えてもらえるようにと願っています。難しい言葉ではなく誰にでもわかる言葉で発信することで政治に興味の無い人にもこの番組を聞いてもらえたら嬉しいです。

最後になりますがまだ日曜討論をご視聴になっていらっしゃらない方はぜひ一度この番組を視聴いただき、既に視聴くださっている皆様はお知り合いの方にお声掛けをしていただく事で皆様も日曜討論を作っていくひとりとなっていただければ幸いです。今後とも日曜討論をよろしく願いいたします。





小野 実里

現在は1ヶ月に一度、中実さんの代わりにご案内役を務めさせて戴いております。

スタジオに通う中で思いますのは、日曜討論は制作される小菅玄三郎代表世話人をはじめとする皆様のご決意とご努力によって成り立っている番組であると感じております。

当日の放送は、遠方からの出演者、そして陰で支えられるスタッフのお力によって制作され、また番組の維持は、大きなスポンサーがいる番組とは

違い、志ある「支える会」の皆様のお気持ちによって成り立っています。そのような絶え間ない努力の上にあるからこそ、日本の国をつくりあげてきた誇りある先人の姿を伝え、また国の在り方を問える番組として継続しているのではないかと思います。

他にない貴重な番組としてこれからも継続されることを願い、微力ながらお力添えが出来るよう努めて参りたいと思います。



高山 由香里

支える会事務局の高山(こうやま)です。会員の皆様にはいつもご支援、ご協力いただきましてありがとうございます。

毎週休むことなく、生放送番組を続けて下さるスタッフの方には感謝の気持ちでいっぱいです。

会員の皆様のお陰もあって、今日ま

で番組を続けることができました。これからも会員募集活動を頑張りたいと思いますので、お知り合いの方で番組に興味がある方や出演希望の方がおられましたら、高山までご一報下さい。

今年は番組構成を変え、多くの方が視聴していただけるよう企画をしています。楽しみにしてして下さい。

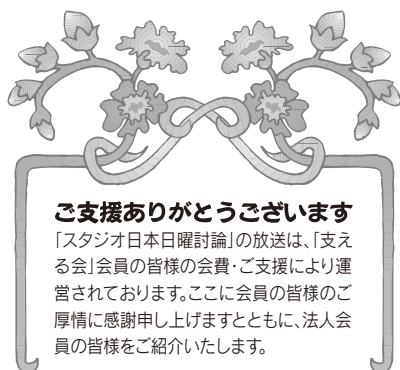
## 事務局の仕事です。



- ①番組の制作ならびにその品質を向上させるための一切の業務  
②出演者の受付ならびに登番者の長期的確保  
③県外出演者への交通費支給ならびに必要なに応じて宿泊施設の手配  
④出演者ならびに制作者への番組収録CDの送付  
⑤番組収録CDの文章化作業と会員への送付  
⑥出演者ならびに制作者が所属する関係先との連絡調整  
⑦支える会の会員ならびに番組のリスナー拡大のための周辺への働きかけ作業  
⑧「日曜討論かわら版」の発行と会員への送付  
⑨スタジオの維持管理  
⑩総会、講演会、懇親会、慰労会の開催  
⑪その他、本会の目的を達成する為に必要な事業

## 三つの不可能を可能にした支援者の力

- 1 スポンサーなしで番組を継続させている
- 2 謝礼無しで出演の連鎖を維持している
- 3 出演者をはじめとする広範な支援者の資金負担で  
独自のスタジオを起ち上げ放送を継続させている



誇りある国づくりへ  
国民の力を！

### 日本会議経済人同志会

☎(03)3476-5611

〒153-0042  
東京都目黒区青葉台3-10-1  
青葉台上毛ビル601

福岡県知事認可 専修学校

### (専)ライセンスカレッジ

☎(092)721-0100

〒810-0001  
福岡市中央区天神1-3-38  
天神121ビル13階

内科

### (医)香月内科医院

☎(0949)22-3520

〒822-0007  
福岡県直方市下境1147-2

家族の強化・家庭の復活

### 教育研究会未来

☎(075)257-1805

〒604-8136  
京都市中京区梅忠町三条通烏丸東入ル  
中井ビル2階

総合建設業

### 松俵建設(株)

☎(0948)42-1033

〒820-0205  
嘉麻市岩崎1554-10

家具製造・販売

### (株)関家具

☎(0944)88-3515

〒831-0033  
大川市幡保98-7

各種食品小売業

### 亜細亜物産(株)

☎(0820)56-5001

〒742-1102  
山口県熊毛郡平生町平生村  
821-6

九州不動産専門学院グループ  
同窓会

### 九栄会

☎(092)714-4341

〒810-0001  
福岡市中央区天神1-3-38  
天神121ビル13階

京懐石

### 松 幸

☎(092)712-1331

〒810-0042  
福岡県福岡市中央区赤坂3-4-6  
(護国神社前・コアマンション横)

生命保険・損害保険

### (株)総合保険社

☎(06)6380-1616

〒565-0835  
大阪府吹田市竹谷町4-1

国を愛する新しい  
国民運動ネットワーク

### 日本会議福岡

☎(092)641-3263

〒812-0044  
福岡市博多区千代4-30-2  
山本ビル4階

国益を守り 真実を語り 誠心を尽くすことに 休日なし

## 番組に出演して

早いもので『日曜討論』も間もなく9年目(平成24年10月)を迎えようとしております。そこで今回は、放送開始9周年を記念して今まで出演にご協力して下さいました皆様のご感想やご意見をご紹介します(再録含む)させていただきました。

「スタジオ日本 日曜討論」は毎週日曜日午前10時から12時30分までのインターネット生放送番組として配信しています。番組のURLは、<http://tuoron.l-mate.net>です。または、インターネットで「スタジオ日本 日曜討論」と検索しますとユーストリームのサイトよりご覧いただけます。

※肩書きは番組出演時のものを記載させていただきました。



古賀 誠さん

楽天堂広橋病院 医師

周囲を海に囲まれた島国日本の中で、日本人は長い間に均質化し、ほぼ単一民族からなる治安の良い社会を作ってきた。その中では「人の和」が重視され、以心伝心で意思疎通が出来て、日本人は自己主張せずともお人よしのまま生きて来れた。それとは対照的に、諸外国はお互いに国境を接して、頻繁に戦乱を繰り返してきた。そして、多くの民族が共存する為には各々の主張を戦わせ、議論を積み重ねて社会をつくる必要があった。

この日本と外国人との人種差は極めて大きい。交通・情報通信が発達したお陰で国境の壁が低くなって来た現在、日本国の存在と民族の尊厳を主張しなければ、日本の独立までが危い時代になってきた。特に中国人は他人を信じない一方で、自分の利益の為に嘘や捏造を厭わない人たちである。それに加えて共産党は本来暴力主義であり、中国共産党は暴力団、ヤクザ集団と言って良い。

現在中国が反日の為に利用している「いわゆる南京大虐殺事件」の真相は、当時の中国国民党中央宣伝部と国際平和委員会(フィッチ、ベイツ、マギー、スマイスら)の捏造だった事実が最近明らかになった。捏造された南京事件を利用して、東京軍事裁判は松井石根、広田弘毅らを死刑にした筈だ。

1967年文化大革命の最中に、中国共産党に阿った朝日新聞の本多勝一記者は「中国の旅」を出版し、南京事件があたかも真実であるかのように記述した。南京にある「南京屠殺記念館」が、実は日本会社党

元委員長田辺誠が江沢民に入れ知恵して始まった計画であり、建設資金3000万円余りも日本社会党が負担したというのだから、日本人にとっては驚きである。そのお陰で、日本は中国共産党からのユスリ、タカリ、恫喝を受けっぱなしである。「南京事件が中国国民党などの捏造だ」という真相を日本のメディアが全く報じないのは、中国に対する気兼ね・自虐史観の為であろう。中国共産党が尖閣諸島を狙っているのは、日本メディア・政府外務省が自己主張できない、国益を守ろうとしない弱腰だからである。

また、いわゆる「朝鮮人慰安婦」問題の真相は、1983年作家吉田精治が「済洲島で若い女性を集団連行して慰安婦にした」と創作捏造して書いたのが契機であり、その内容は現地調査で否定された。これ以前に朝鮮側が問題提起をした記録は全くない。

吉見義明が書いた『従軍慰安婦』という本は、「ある医師の個人資料をルポライターの林えいだいが勝手に持ち出し、その資料を基に無断で書かれたものである」と告発している事実を、私は最近知った。

この「いわゆる従軍慰安婦問題」を宮沢喜一首相・河野太郎外務大臣がはっきり否定せず、村山談話が恥の上塗りをしたお陰で、日本は最近諸外国から貶められ、韓国人によって「慰安婦記念碑」を造られた上に、恫喝されている訳である。李明博大統領はこの問題で日本へのユスリ・タカリに必死である。降りかかってくる火の粉を払い日本民族の尊厳を守る為に、声をあげて真実を主張し続けるのは我々日本人の務めであろう。その為の数少ない機会が、我々の「日曜討論」である。



**梶栗 勝敏さん**

日本会議福岡 事務局長

今年は沖縄県祖国復帰40周年である。今から67年前、3月26日から6月23日までの3ヶ月に亘り、沖縄では激しい地上戦が展開された。

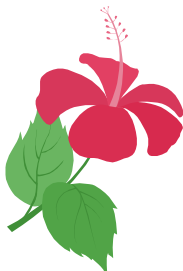
迎え撃つわが国の兵力約12万に対し、米国をはじめ連合国側は約55万(上陸部隊18万)の大兵力である。大東亜戦争の形勢が厳しいなか沖縄の死守、延いては本土防衛の為に総力を挙げての死闘が繰り広げられた。この戦闘では、わが国の軍人軍属の死者・行方不明者9万4千人、民間人の死者は10万人に及んだ。一方、圧倒的な物量差を背景に3週間での沖縄占領を予定していた米軍は、3ヶ月の期間を要した上に、予想外の6万5千6百人の死傷者の打撃を蒙った。その中には第十軍司令官・バックナー中將の戦死(第二次世界大戦中、米国の戦死者では最高位の階級)も含まれている。

硫黄島や沖縄での壮絶な戦いを経てスチムソン米陸軍長官が、「日本本土への全面的な侵攻には、死傷者100万以上、必要兵力500万」と政府に警告したのも、わが国の予想以上の精強と自軍の被害の甚大さに他ならない。結果この沖縄戦は、米国をして日本本土上陸作戦を慎重ならしめ、わが国の無条件降伏を有条件降伏へと転換せしめるに至った。加えて「沖縄戦は実質敗北であった」との意識をも生み出したのである。

従って戦後のわが国は、沖縄で尽忠無比・不撓不屈の戦いを展開し、祖国を死守した英霊を抜きにして語れない。京都産業大学名誉教授のロマノ・ビルビッタ氏は、次のように述べている。

《英霊の顕彰とは、彼らの犠牲を悲しむことだけではない。彼らの行為を誇りとし、後世に模範として伝えることである。そうすることによって、英霊の犠牲は国民全体の神聖なる遺産となり、国民の道徳も養成されるのである》

9年目を迎えている「日曜討論」の目指すところは、各種時事問題への理解や、過去の歴史を偲び、単にその事実を知ることではない。その番組を通して日本人としての生き方や日本人が持っていた高い倫理観や道徳の回復、そして誇り高い日本の再建に資することである。視聴者の皆様方の一層のご支援とお力添えを賜れば幸甚である。



**濱口 和久さん**

拓殖大学客員教授・

国際地政学研究所研究員

日曜討論に初めて出演した平成16年5月2日の頃は、領土問題に関して、今ほど国民の関心は高くな

かった。私は平成16年3月11日に竹島に家族4人で本籍を移した。この時、「右翼のようなことは止める」と批判する人もいた。

しかし、国民は2年前の尖閣諸島沖での海上保安庁巡視船に中国漁船が衝突する映像を見た時、国境線の厳しい現実を痛感したはずだ。今年4月に石原慎太郎東京都知事が尖閣諸島を都が購入すると発表し、寄付金を募集すると、瞬間に10億円を超える資金が東京都に寄せられている。今や領土問題は、国民の間に少しずつ浸透しつつある。領土問題は国家の基本問題である。

ドイツの法学者イェリングは『権利のための闘争』の中で「隣国によって1平方キロメートルの領土を奪われながら放置する国は、その他の領土も奪われ、遂には領土を全て失い、国家として存立することをやめてしまうであろう」と指摘している。もっと簡単に説明すれば、領土問題とは、自分の家(土地)に他人が勝手に入ってきて居座り、「ここは今日から俺の家だ。お前は出て行け」と言われているようなものである。他人を排除するための手段を講じなければ、不法に居座り続けられて、泣き寝入りすることになる。

これと同じことを国家レベルで火事場泥棒のごとく強行したのが、ロシアによる北方領土、韓国による竹島の半世紀以上にわたる不法占拠なのである。あらたに中国が尖閣諸島や沖ノ鳥島を虎視眈々と狙っている。

今年5月23日、『だれが日本の領土を守るのか?』(たちばな出版)を上梓した。日本の領土・国境線問題を考える上で、理論武装に役立つと1冊だと思う。是非ともご一読を。



**吉田 重治さん**

団体職員

「横綱土佐犬」日本は大東亜戦争でアメリカ「ライオン」に敗北した結果、GHQ(連合国軍総司令部)特にニューディール派=社会主義

者)はポツダム宣言の「日本【軍】の無条件降伏」を占領後に「日本【国】の無条件降伏」にすり替えて日本国家主権を剥奪した。



被占領国の国家改造は国際法(ハーグ陸戦法規)違反のため、日本政府への恫喝により、日本国家主権の存在を偽装して、日本国の歴史や伝統精神[日本国を愛し、祖先を敬い、日本人を誇りに思う等]を抹殺し、日本が真の独立不羈国家として二度と立上れないように4大洗脳策:①ウォー・ギルト・インフォメーション・プログラム(戦争責任は100%日本とする戦争責罪贖罪洗脳計画)②極東国際軍事裁判(東京裁判:事後法による裁判偽装の復讐リカ)③日本国憲法(GHQ製の日本国監理要綱)④旧教育基本法(GHQ製の日本国教育監理要綱)を実施させ、NHK、朝日新聞、共同通信、岩波書店が代表するマスコミを「GHQニューディール派=社会主義者の検閲官常駐」で洗脳し、共産党、旧・日本社会党や現・民主党内の特定集団や社会民主党や学者・文化人・評論家を反日に育成・エージェント化し、それらを使噓・煽動し、反日・憎日思想を拡大再生産させて、日本国の無力化、日本人の国家主権・危機意識抹殺活動を現在まで継続推進の結果、国家主権・危機意識が欠如した「平和空想夢想・空理空論症候群」に罹患した多くの卑屈・怯懦な反日・無日日本人が飼育され、遂には敵国中共(共産中国)やロシアのスパイ・エージェントとして反日・憎日では治まらない卑劣・卑屈・怯懦の極致「売日」の政治屋・官僚・経済財界人等の売国奴が出現している。

戦前の「横綱土佐犬」日本は戦後、「豚」日本に改造され、後足「北方四島」をロシア「罌」に銜えられ、前足1本「竹島」を韓国「狐」に銜えられ、もう1本の前足「尖閣・沖縄諸島」と海洋海底資源を中共「虎」の強奪に瀕し、飢えた「痩せ狼」北朝鮮の核・ミサイル危機にも瀕して、同胞を拉致されている惨憺たる状況にある。

これは「元寇」、「日清戦争」、「日露戦争」以来の日本国家・国民の危機であり、中共「虎」は日本国を包略する第2列島線を中共制海権として太平洋に設定した。

中共「虎」の航空母艦、原子力潜水艦等外洋艦隊や宇宙・航空兵力大増強等による太平洋への膨張侵出は【日本国征服】の準備である。既に中共「虎」は日本列島西半分を「東海省」、東半分を「日本族自治共和国」の地図を作成済である。斯かる事態の日本国民の拱手傍観はアメリカ「ライオン」の衰退に伴い、日本列島に五星紅旗が翻り、漢民族や朝鮮族等が溢れ、漢民族の暴虐な独裁圧制下、日本民族は新疆ウイグル族やチベット族と同様に凄惨・悲惨な状況必至である。

「豚」日本は「虎」、「罌」、「狼」の猛獣国の核ミサイルの標的にされ、恫喝・強請られ、卑屈・怯懦な国に墮し、国家存亡の危殆に瀕している。猛獣国は「平和を愛する諸国民」ではなく、「豚」国を食べるのである。日本国憲法の

前文『平和を愛する諸国民の公正と信義に信頼して、われらの安全と生存を保持しようと決意した』の虚構が立証されたのである。可愛い子、孫、子々孫々の尊い命を中共「虎」やロシア「罌」の虐殺・抹殺や戦闘の流血・落命から守護・防禦する唯一確実な方法は「非武装・非核ミサイル武装の空理空論平和運動」では無く、国際関係における国益確保の軍事力依存の現実認識と真の独立不羈の保証・保障は中共「虎」の日本国への領域侵犯・侵略を企図させない「自前の強力な核ミサイル重武装の構築/スパイ防止法の制定」を基軸・基盤にした同盟国との強固な集団自衛にある!!【国防は最大・最高の福祉】であり、逆の《福祉は最大・最高の国防》はない。

家族愛・郷土愛・祖国愛による国家・国民挙げての核ミサイル重武装による国防体制構築が最緊要である。



木村 秀人さん

私立博多高等学校教諭

番組に出ていますと、産経新聞を除いて、ほかのメディアが流さない中国の実態がよくわかってきます。と同時に、この中国に対応できない政府、政治家、メディアの愚がよく見えてきます。

日本の戦後史がはっきりと姿をとってきました。この戦後史を鏡として戦前を見ますと、先人たちが実に立派に国際状況に対応して、東アジアの近代化を進めていったかがよくわかります。日々刻々と毎日のニュースが戦前の偉大さを逆証明していると言わざるを得ません。

違いは国防です。国を守るということが個人の生活の中に一本まっすぐに入り、人生に緊張感を与えているかどうかでしょう。「事あれば命を懸けねばならない」。この実感が余計なものをそぎ落として、私たちを人生に正対させる。この国に住む幸福が英霊のおかげであれば、自分の中に閉じこもり、自分の幸福だけを考えることは許されない。何としても今の自分を超えて、人生に前向きにならなければならない。これが日本人の生きる力でしょう。先人たちが国のため私たちのために死に、私たちが自分のためにだけ生きるということは許されない。先人たちに倣い、この国の将来のためにすることがある。私たちは今もなお防人であり、個人としても国を守ろうとすれば、NHKのニュースのようなぼんやりした日常は消えて、現実を視る目を持つことになるでしょう。ここで初めて、日本をどうしたらよいかが見えてきて、日本再生の具体的な思潮が反日運動を押し流すでしょう。日本再生は経済のことでない、国防の意識なくして、日本人の再生なく、我が国の再生もあり得ない。



### 金澤 明夫さん

日本協議会福岡県支部 代表幹事  
平成15年より長きにわたり一  
度も休まず毎週放送されてきた  
「日曜討論」。

私も何度か出演させていただ  
きましたが、1回の放送のために多くの時間を費や  
し企画が練られ、資料の収集と分析、コメンテータ  
ーの確保等々実に気の遠くなるような作業の連続で  
あったことであろうと推察する時、中心メンバーの  
方々のご協力に頭の下がる思いであります。しか  
も、これを専門に行っておられるのではなく、本業  
は別にあるのですからなおさらのことです。

これらのことは、何とかしなければこのままでは  
日本は滅びてしまうという危機感と強烈な使命感の  
なせる業であると確信しています。

したがって、この「日曜討論」にご縁をいただ  
いた者は、すべからくこの危機感と使命感を共有し、  
同じ思いに立って、出来得る限りの協力を惜しまな  
い態度こそ大切ではないでしょうか。

当番組の更なる発展を願って、みんなで支えてい  
きたいものです。



### 若杉 英之さん

医師

いつの頃からか、日本では一  
般の新聞・放送が真実や大切な  
ことを報道することは少なくな  
りました。今では世界の常識が  
分からなくなっているのではない  
でしょうか。

しかし、日本を立派な国に甦らせるべく懸命の努  
力を続けておられる方々がおいでになります。私も  
諸種の会に参加しています。日本会議、チャンネル  
桜千人委員会、新しい歴史教科書をつくる会、日  
の丸を揚げよう会、新聞アイデンティティ、神州正気  
の会、郷守人、国家基本問題研究所、「スタジオ日  
本」日曜討論番組を支える会、三島由紀夫研究会、  
NPO百人の会、等々です。これら保守勢力が、それ  
ぞれ特色を発揮しつつ、連携してゆき、大同小異な  
る考えのもと結集するに至れば大きな力になるであ  
らうと思います。

日台関係の維持発展を最重要課題の一つに掲げて  
おられる「スタジオ日本」代表世話人の小菅玄三郎  
様は日本会議福岡でも理事を務められ大活躍中  
です。心ある方々はみんな日本会議に入会されるのが

良いのではないかと私は思っております。その上で  
各分野で活動されることになれば、しっかりした日  
本を築くことが出来ると確信いたします。



### 淵 幸代さん

便利業

6月に公開された、幸福の学  
科の映画「ファイナルジャッ  
ジメント」を観た。

ある日突然、日本が外国に占  
領されてしまう、という場面に衝撃が走った。「24  
時間いつでも行きたいところに行き、どんな人にも  
会うことができ、どんなことを言っても罰せられる  
こともなく、日本の通貨で何でも買うことが出来た  
昔が懐かしい」という時がくるかもしれないと思っ  
た。

映画では軍事拡張を続ける近隣某国に危機を感じ  
た主人公が新政党を立党し衆院選に臨むが惨敗。そ  
の数年後、その危機が現実となり突然某国が侵入し  
日本は占領される。

言論、信教、経済の自由は無くなり、逆らう者は  
次々と処刑される。実際に国をなくした外国人女性  
も登場する。幼いころ目の前で両親が敵国の兵士か  
ら殺されたのだ。

国を奪われるという事を必死で食い止めてきた祖  
先のおかげでわたしたちはその悲劇を知らない。

しかし現在、平気で我が国を売ろうとしている左  
翼勢力がある。尖閣諸島を奪われそうになっても北  
方領土がロシア化していっても何の手も打たない弱  
い政府がある。祖国日本がなくなることが彼らの希  
望と理想なのだろうか？彼らは本当に日本人なのか  
信じられない。

映画では過去に左翼の政治家だった人が反省をし  
て宗教活動の地下組織を支援する。主人公は彼らに  
護られながら、「この国を守り又世界から戦争を無  
くし平和にしたい！！」と。そのためにはまず人々  
の心を変えなくてはならない、と愛の教えを熱く説  
く。そこは現代のネット社会の事、仲間のコンピ  
ュータの専門家が情報技術を駆使して彼の演説を全  
世界に伝える。人々はその言葉に感動して、日本を占  
領した、かの国も自由国と化し平和が訪れる。とい  
うストーリーである。

私はこの映画を観て、人は皆地球神の下に兄弟で  
あることで理解し合いつつも祖国を愛し平和を望む  
良識のある活動をし続けることの大事さを思った。



## 荒牧 賢二さん

中小機構 (SMRJ)

地域活性化支援アドバイザー

焼酎業界の先駆けとして、多くの国々を販売行脚・市場構築のため、諸外国との流行活動の過程で、2005年の頃より、AEJ (アジア イクセプト ジャパン・日本を除くアジア) なる認識の下で開催される各種国際会議開催の実態を垣間見るようになりました。

「明治維新の時代の国難を賢明に乗り越えた」アジア諸国の「羨望の国」であった日本が、何時しか、NDC・JAPAN (ニューリイ テクライニング カントリーJAPAN・新没落国家日本) と揶揄されるようになりました。交流活動も新しい、ベトナム・ミャンマー等のビジネスパートナー諸氏から、「今、Japanは「NATO (No Action talk Only) といわれているよ」との話も聞くようになりました。

日本人の資質が、改めて問直されている事を実感いたしました。また、日本再生のための教育改革の必要性を海外での営業活動の過程で、しみじみと感じました。国防の観点に立てば、今の日本は、かつての日露戦争前夜を思わせる国際情勢である。

「自分の国を自国で守ろうとしない国家感」の日本の現状を、海外での交流活動にて培った友人の多くが危惧しております。

最近、つとに国政を預かれる方々をお願いしている事がございます。かつて極東最大と言われたフィリピン・クラーク米軍基地より米軍撤退後の南シナ海の現状 (特に中国海軍の増強ぶり) を国を挙げて検証すべきでしょう、と。私も、期間はずれますが、2003年 (平成15年) ~2007年 (平成19年) にかけて、フィリピン・ベトナム市場に集中して、各々2年半ほど営業活動展開いたしてまいりました。その間、何度か移動のため、南シナ海を航行いたして参りました。南シナ海に於ける、中国海軍の増強ぶりを確認し、また、その横暴さの一端を垣間見してきました。現在の、日本の与野党を問わず、国政を預かれる方々の「日本の海を守る」との意識の薄さに暗澹たる思いを抱いております。

南シナ海に続き、東シナ海で「中国海軍」の横暴を許しますと、日本の領土保全是極めて厳しくなります。その時、現状の「平和ボケ」の日本であれば、アメリカは日本を「完全に見捨てます」。この事は間違いありません。多くの米国の友人からも聞き及ん

でおります。

私が、現在所属いたしております日本会議福岡の主催にて、5月3日の憲法記念日講演会に、チベット問題研究者で桐蔭横浜大学法学部教授Mr. PEMA GYALPOを招いての講演を前にして、鮮烈に思い出した事がございます。2001年6月であったと記憶いたしておりますが、北京某所にて、当時の中国の指導者の命令に基く集會に、上海にて立ち上げておりました合弁企業の中国人社員共々、偶然に参加いたしておりました。

暫くして、「あなたは日本人だから出ていきなさい。」と会場から摘み出された経緯あります。その折の資料の中に、講演時、Mr. PEMA GYALPOより、案内がありました「2050年極東マップ」に似た内容の地図が掲載されていた事です。

当時、中国での最初のオリンピック「北京オリンピック開催」が決まった後とあって、国威発揚の意図の下、北京を中心として、各種啓蒙活動が盛んに行われており、その集會もその一端であった模様です。

また、その当時の中国の指導者 (後に周恩来の娘婿の「李鵬」である事確認を得ました) の一人が、海外からの来訪者に盛んに、「日本と言う国は50年後には地球上に存在しない」との発言を繰り返しているとの事、親しくしていた香港のメディアの方から聞き及んでおりました。Mr. PEMA GYALPOの指摘の如く、中国の指導者層は、この頃から、用意周到に日本の領土・領海取得プランを進めている事が確認できました。日本の歴史開闢以来の「海に守られて来た国・日本」から、「海を守る国・日本」への国を挙げた意識転換を図らないと、日本の国の領土・領海を守り通す事は適いません。

また、世界を見渡せば、日本を取り巻く、中国・ロシア・韓国・北朝鮮のみが反日国家であり、他は概ね親日の国々です。そして、何よりもアジアのリーダーは日本であって欲しいと願っておる国ばかりです。

先にあげましたAEJ (アジア・イクセプト・ジャパン) なる発想を世界に提案し始めたのは、マレーシア・インドですが、この両国とて、今後とも日本がアジアのリーダーであって欲しいと願っている事は間違いありません。

この度、ウィグル難民国際会議が東京にて開催されました。中国当局の日本政府に対する「異常とも思える」抗議活動は記憶に新しい処ですが、その折

の中国の姿勢が気になります。日本の国を預かる多くの国会議員の方々、当該国際会議中止要請の手紙が届いたとの事を聞き及んでおります。果たして、何人の議員が、「内政干渉」であり「ノー」と言いう返書を出されたでありますでしょうか？彼の国は、民主主義のルールは通用しない世界。「無視と言う考え方」は通用しません。上位下達の国柄。「返事をしない事は、納得した事」になります。中国が、日本を属国化し始めた証とも思われます。「日本語」で構いませんから、「イエス・ノー」の意思表示は面倒でも堂々と実行される事が肝要です。

世界の多くは、明治の時代の「堂々たる日本人」を待ち望んでいるに違いありません。



藤井 守人さん

ソフトウェア技術者

去る3月の下旬に、とある研修会に参加し、李登輝元大統領直々の講義「最高指導者論講座」を受

講する事が出来ました。

今回の講義は人数が少ないので、マイクも不要な程のゼミ風の様相です。

李登輝氏は、御高齢且つ手術後にも拘らず、講義で語り始めると別人の様な張りのある大きな声で、手振りを交え、正に熱烈に語り続けて下さいました。無血改革を成し遂げられた方だからこそその強い意志が感じられます。

講義の中、指導者の重要な要件に挙げられたものに「公」と「品格」がありました。

今の日本の政治家に、果たして備わっているでしょうか？

日本の対中国外交に尽いては、「中国は嘘ばかり言う！しかし大国には違いないので上手に付き合わなければならぬ！それはひたすら媚びる事とは違う。妥協と媚びる事は全く違うのだ。」と言われました。

私は李登輝氏の日本に対する想いを感じました。ただ、日本の政治家を叱咤しているだけで無く、日本の政治家に「公」が無い事を指摘し、何より見本にして来た日本には、立派な見本であり続けて欲しいと言う悲願にちかいものが沸々と湧いているように感じました。

講演終了後、駐車場の出口でお見送りをする事になりました。そこで見た光景は、つい先ほどまで私達

に和やかに、且つ熱い講義をして頂いた方の台湾でのポジションを改めて見せ付けられるものでした。駐車場の出口に面した大通りには、パトカーが2台、白バイが1台待機。李登輝氏の車が出る直前から、大通りは信号機操作で通行止めになります。

そして李登輝氏の車は前後を警備の車に挟まれて、停車する事無く通りに出て行き、待機していたパトカーと白バイに先導されて行きました。

日本と国交があろうと無かろうと、台湾は大統領（総統）を有する立派な独立国です。こういう国こそが、本当の日本の「友好国」と言うのではないのでしょうか？日本がこの「友好国」との「絆」を強くする事は、「中華人民共和国」に媚びる事無く「上手」に付き合う事に繋がると思います。こんな台湾の事も、日曜討論ではもっと知らせて良いと思います。



永田 昌巳さん

前筑後市議会議員

日華(台)親善友好慰霊訪問団に3回参加させていただいた。台湾には日本人(兵)を神と祀る廟が数多くあり、その地域の人々によ

って崇められている。神(霊)と人との交流、その中に厳粛なる真を感じるのである。

歴史の真実は神と人にとに嘉みせられる。そして強烈なアイデンティティを生むのであろう。

私は「日曜討論」番組に3回出演させていただき日台慰霊の交流の中で得た成果や感想について述べさせていただいた。番組を終えるとホッとする安堵、安らぎを覚えるのである。何故だろうか。人間、真実に触れる時かくも穏やかになるのだろうか。

今日本では数多くの危機に直面している。外交・領土問題、歴史・教科書、原発・エネルギー問題等国の存亡に関わる問題が山積しているのに日本のマスコミはどうして反日偏向報道をくり返すのか。何故マスコミに携わる人達は日本人でありながら日本人の誇りすら破棄し、国益を棄損し国家崩壊に加担するのであるか。茶の間のテレビでみる進歩的文化人と言われる人たちの茶番は見るにたえない。

その点「スタジオ日本 日曜討論」番組は誠に小さなメディアではあるが、国を愛し真実を伝える大変重要な放送番組である。

「継続は力なり」啓蒙活動が重要だ。



### 中山 茂さん

行政書士

日曜討論は10年目を迎えられ、愈々、社会的に有益な存在として充実・発展されておりますことを心よりお慶び申し上げます。

伝教大師・最澄の言葉に「一燈照隅」（一隅を照らす、これ即ち国宝なり）という言葉があります。安岡正篤先生は、この言葉の事故来歴を知り己の行とされ、人にも呼びかけられたとのこと。曰く「社会のどこにあっても、それぞれの立場で仕事を通じて世のため人のために貢献する。そういう生き方を考えなければならない。」(注)「小さな人生論」(致知出版社)

日曜討論の報道に携わっておられる方々は、この考え方を実践されておられるものと存じ、敬意を表する次第であります。

いま我が国は、3・11大震災と原発事故による災難に遭遇しています。また、尖閣諸島を確信的利益と公言して侵奪を企てる中国、日本の領土を不法占拠しつつけるロシアと韓国が近くに存在しており、安全保障の強い意志と強化対策がなくては我が国の存続が危ういと痛感しています。

尖閣諸島寄付金は12億円を超えていますが、これはわが国の危機に対する国民の意思表示であり、一燈照隅の具体的な行為でありましょう。しかるに、このような現状を伝えるべきメディアは、ごく一部を除きその役割を果たしておらず、退廃・墮落ぶりは目を覆うばかりです。

このような状況にあつて、日曜討論は正論を主張し、小さくとも存在感のあるメディアであると認識しております。正に、一隅を照らす貴重な存在であります。今後ますますのご活躍、ご発展のほどを期待いたします。



### 三好 誠さん

日本ペンクラブ会員

大陸へは行きたくない。日本ならどこでもいい、日本へ行きたい。ご子息を東大医学部に学ばせ、関東で開業されている台湾在住の林政徳さんは、東京では皇居、靖国神社に参拝した。大阪では橿原神宮へ行きたいという。剣道の道衣と面を持つ

て行く。私はあらかじめ万博公園の洗心館と大阪城公園の修道館を下見して手合わせを頼んでおいた。師範は50歳代で台湾の客は85才と告げると驚いていた。剣道の礼法と戦心教育を兵庫県教職員連盟委員長齋藤尚文先生のレジメにより伝えました。大阪の武道館は素晴らしいとの感想です。国立民族学博物館では日本語の音声案内を片手に熱心に見学し、少数民族の言語や風習民具の数々を詳細に集めた圧倒的なコレクションに日本人が諸民族に示す深い関心と好意が表れている。だから解放の為、火中に飛びこんだのだと話しました。日常は驚くほど小食で食材ごとに塩分や脂肪を気遣い、検査数値を論ずるのは流石に医師の親だと苦笑しました。阪急・地下鉄を乗り継いで近鉄なんばより橿原神宮へ見送り、林さんは名張の知人を訪ねました。もと陸軍一等兵だった誇り、常に背筋をのばして速足で歩く歩兵の面影、日本はこんな方々を置き去りにしてあたふたと帰国した。あとは蒋介石の思う壺だった。終戦の時なぜもっと粘れなかったのか。それにしても台湾には立派な方々が残された。その存在は大きい。我々は彼らを尊敬し、尊重しなければならない。

常に好意をもって接して下さる、かけがえのない友である。自国が日本に割譲された日清戦争の下関条約第二条を暗誦された。覚えていなかった私は言葉もなかった。



### 友納 徹さん

対馬協議会 事務局長

数年前の対馬危機に処し、当番組の出演時にも、国境特別法の必要を論じました。後に、来島の都議団小磯明先生や、福岡市議の水城四郎先生、又、長崎県議、日本会議国会議員団の皆様、及び取材を受けた約50社の方々にも“日本周辺、法武装論としての同法は急を要す”と語って参りましたが、認識が更に高まりつつあるは、進出から侵略の可能性を公然と具体化させている中国の動向に由来します。尖閣への介入に対しては、国土戦略ですので、世界混乱の源として、厳しく中国政府に対応すべきです。又、北の方はロシアの不当占有のままの、異常な4島支配を長期残問題から真の日露友好に導ける努力を、日露政府が実現しないといけません。香港方武で残る2島の位置づけとして提案したり…。

北方の領土は、ロシアの領土ではありません。



松俵 義博さん  
松俵建設㈱ 会長

日曜討論に出演し自分で気づかなかった事に気づき、多くの皆様に自分の意見を伝えることが出来てうれしく思います。初めは思うように言葉にならず、どうしても早口になり聞きづらかったと思います。でも司会の方の進行でリラックス出来、笑顔さえ出るようになり良かったです。

日華(台)親善友好慰霊訪問団に参加させてもらって気づきを戴きました。国旗とか国家、日本人である事さえ忘れて仕事に従事し、台湾に行つてそれがより解かり、同じ志を持つ仲間が増えた事、知らない世界を見させてもらった事、皆様に感謝しています。大勢の方々に慰霊訪問団として台湾に行つて頂きたいです。台湾大好きです。これからも日曜討論が末長く続いていきますように心より応援いたします。スタッフのみなさん頑張つて下さい。



櫻井 英夫さん  
川崎町議会議員

政治と言えば国政である。国政の話題は政局。その中心は小沢一郎議員。もううんざりだが、天皇陛下にすら傳くことをしらぬこのヌエ的議員が、多くの有権者から支持をあつめるのだから摩訶不思議だ。一方、私も政治家の端くれ。だが新聞もTVも見向きもしない、どこの馬の骨とも知らない町議会議員である。選挙は4回戦つて3勝2敗だから計算が合わない。つまり、本選で負けて議員死亡により繰上げ当選したのである。敗戦の将を2度も経験すると正直死にたくなる。本人の意思に関わらず軽い鬱病に罹つてしまった。幸いなことに繰り上げ当選を報道で知つた小菅玄三郎氏から早々の祝電には大いに励まされた。

さて、そんな情けない非力議員だが、私なりにこの国を、この地球を何とかしようと思っている。伊豆諸島の名も無い小離島・神津島から福岡県田川郡川崎町に移住し、「地盤、看板、鞆」の無い、見ず知らずの排他的な土地で議員を続けるのは至難の技である。そして、そこで真つ当な議員活動が続いているのもまた難しい。地方議会は良くも悪くも全て利益誘導である。マスコミの監視の目は無い。やりたい放題。そこに苦言を呈すれば共産党と言われる。保守系を自負する私

がである。小沢議員同様、わが国の保守系議員の国家観、歴史観は何かあやしい。地方議員にはそれすら無さそうである。地方議員は国会議員から見たら目鼻鼻糞のようなものであるが、数の面では圧倒的に勝っている。私も含め、地方の保守系議員がまともな国家観、歴史観を持つことが求められよう。幸い、小菅氏が肩入れする日本会議がそこにテコ入れを始めている。領土、拉致、外国人参政権問題などの請願をどんどん出して問題意識を発揚させて欲しい。国民のアイデンティティ、国民意識の高揚こそ今求められており、地方議員が大いにその一翼を担わなくてはならないと考えている。



岩瀬 晃淑さん  
公務員

子供が生まれて名前をつけるという行為について最近非常識な名、まったく読めないあて字をする親、そういったことが増えている。

日本人の日本的な美徳の崩壊、道徳の腐廃が現在進行形で進み、終着駅は日本国の亡国なのだろうか。

子、例えば良子としよう。子とは一から了迄最初から最後まで良い子で、というように親は子のことを思い命名したもののだが、最近は自ら腹を痛めて産んだはずの子の、ちょっとした名前による不具合すら想像できずに自らの陣腐な自己満足を満たす命名がなんと多いことか、そのような道徳な風潮は日本には不要で、権利ばかり主張する輩が多数という証左は我々の代で断ち切らねばなるまいに。

インターネット生放送番組

スタジオ日本

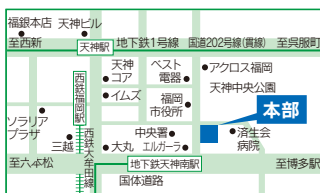
**日曜討論**

http://touron.l-mate.net

毎週日曜日10:00~12:30

アーカイブも好評掲載中!





## スタジオ日本 日曜討論番組を 支える会

●事務局 福岡市中央区天神1-3-38  
**TEL(092)721-0101**  
FAX (092)725-3190

URL <http://touron.l-mate.net>  
Eメール [touron@l-mate.net](mailto:touron@l-mate.net)

